

---

# 遊戯王って難しい・・・

kugi

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遊戯王つて難しい・・・

### 【Nコード】

N3149W

### 【作者名】

k u g i

### 【あらすじ】

ただの厨二病患者が憑依して遊戯王GXの世界に果たしてもるもろの厄介ごとに主人公は耐えられるのかそしていつになったらデュエルタクティクスが上達するのかただそれだけの話

## ブログ兼第一話 スクラップ使いのオリ主がない？いないなら作れば良い

この作品は主人公以外が俺TUEEEEなどの最強系最低物の要素を含みます

そういうものが苦手な人は急いでブラウザバックすることをお勧めします

この小説は作者が受験勉強に対するストレスをぶつける作品です  
で不定期更新です

以下いろいろ忠告などがまだたくさんありますが  
めんどつなので自己責任で見てください



## プロローグ兼第一話 スクラップ使いのオリ主がない？いないなら作れば良い

知らないところで目が覚めるのここまで恐ろしいものだとは思って  
いなかった

それはそうだろう

そんなこと日常的に考えて行動している奴がいればそれは確実に一  
般人ではないだろう

そういう俺は勿論一般人であるからそんなことは想像したことすら  
なかった

いつも通りに過ごし、いつも通りに一日を終えた筈なのに気づいた  
ら自分の部屋ではなく、ホテルの様な場所で起き俺は目を覚ました。

最初はまるで意味が解らず理解も及ばなかった

ついで俺を襲ったのは恐怖心だった

それはそうだろう。気づいたら知らない場所にいた。

普通に考えれば拉致致である

そんな状況で冷静にいられる筈もない

勿論一般人代表たる俺は例に漏れず部屋の隅でガタガタ震えていた  
訳だ

しかしいつまで経っても何も起きない事に疑問を感じ、恐る恐る部  
屋を物色し始めると何やらポストンバッグの様な物を発見した  
中になにか俺がこの様な状況になったヒントは無いかと思つて中を  
覗いて見ると何やら紙が入っていたのでその紙を見てみる

「...は？」

デュエルアカデミア本校受験票

そんな言葉が目飛び込んできた

…いやいや流石にそれは無い  
いくら俺が厨二病を患っていようと流石にこれはあり得ないとわかる

…これはあれか、哀れな俺をドッキリにはめようとする誰かの陰謀か！

例え鞆の中に紙の他にデュエルディスクらしき物とデッキらしき物体があるうと信じないぞ！  
どうせこのデュエルディスクらしき物だってオモチャのやつなんだろう！例えオモチャにしては重かるうとデッキをセットして腕はめてみて起動したら起動できてしまったとしても、カードを引いてカードをセットしたら立体映像がたととしても、さっきから窓の外にKCの文字が馬鹿でかいビルの壁に書いてあるうとドッキリなんだろう！

…もういいよな？俺はたくさん否定したしもついいよな？

「遊戯王の世界にきたあああああああああ……！！！！！！」

…厨二病の俺は我慢ができませんでした

しかし現実には甘く無かったです。はい。

あの後調べた結果わかったことを箇条書きにしつつ状況を説明しよう。…誰に説明しているのかわからんがまあいいでしょう。

・受験票を見た結果この人？というより俺の身体？はおれ自身の物ではありませんでした

・どうやら憑依したらしいです。なぜわかったかというところ古傷がないから。…ついでに言うところの古傷は二次創作の主人公とかによくある悲しい過去（笑）ではなく小さい頃自転車で転けて後輪にあしの小指を挟まれ切断する寸前までいった傷なのであしからず。畜生…草履で全速力で坂を降りながらドリフトなんかするんじゃないや無かったです… 鏡を見てくるとその古傷以外は少し前までの俺でした

・ついでに色々鞆の中を物色しているとこの身体の持ち主の日記を  
発見

・日記を見るとどうやら何やら主人公みたいな葛藤やら事情やらが書いてあってそのヤンごとなき事情（笑）で家出てきたらしい…この子も厨二病だったんだね…これ以上見ると俺自身が恥ずかしさのあまりぐわああああああってなりそうなので見るのはやめた。この子自身も他人？に自分の黒歴史を見られたくはないだろう…それにしても他の世界でも厨二病とか…うん、これ以上は考えるのはよそつ。

・閉じようとしたその最後の行にこんな一文が書いてあった

…もうお金がない

・それが事実だと確かめて絶望している 今ココ

・後ついでに入っていたデッキは俺が前世？で使っていたデッキだった

…ヤバイまじでどうしようか

正直デッキがシンクロとか余裕で使うとかエクシーズも使うとかまじどつでもいい

今はそんなことよりも金である

もしかしたら今使っているホテルの金すらないかもしれない。というか無い

なんか無いかと鞆を漁ると中からさっきまでは無かったカードが一枚

ピラツ「強欲ゴブリン」

…破るか…



勿論そんな事はせずに鞆に戻しました

…全力で投げ入れてなんかいないよ？本当だよ？

そんなことはさて置きさつきまでは確かに無かったあのカードがなぜ出てきたのか調べるべくもう一度鞆の中を物色すると何故か強欲ゴブリンが消えてなくなっていた

はて？どうして無くなったんだ？さつきのは夢か？鞆をひっくり返しても出てこない。

もう一度物色開始

すると今度はちゃんとゴブリンが出てきた  
ちゃんと探さなかったからか？

しかし鞆をひっくり返したりしたんだが？

その後色々試した結果この鞆は何かのカードを思い浮かべる。又はカード関係するキーワードを思い浮かべるとその条件に合ったカードを出せるらしい

さつきはお金というキーワードに反応した結果強欲ゴブリンがヒットしたらしい…確かにお金が関係してるけどな？

ご都合主義乙とか言っではいけない

実際問題これのお陰でなんとかこの窮地を脱出できそうなんだから  
ご都合主義乙とか言っではいけない

大事なことなので二回言いました

そんなこんなで試験日当日。今日の試験は筆記である  
ホテルの問題というよりお金の問題はレアカードを換金して払いま  
した。遊戯王の世界様様です  
…さて、色々な二次創作で語られているというより書かれている様  
に筆記試験なんて余裕だろう  
OCGで鍛えた知識でちゃちゃっとクリアしてやんよ！

勿論フラグでした。まる

受験番号98番 柊 優樹

…どうしてこうなったし

というより試験問題が難しすぎた

誰がインプの攻守なんて知ってたんだよ！

あれか！王様が使ったからか！わかるかそんなもん！

誰だよ青眼の白龍＋マンモスの墓場でどの様な事が起きるかとかいう問題作ったやつ！知るかそんなもん！

という訳でそんな問題が続ぎデュエルモンスターズに関する問題は

ほぼ全滅

一般科目で点数を稼ぎギリギリ残ったって感じである

…自信無くなってきたなあ

実技試験の日

そんなこんなで実技試験の日になった

いろんなやつがいるなあと思いつつながら見渡すといるわいるわ登場人物が沢山いる

壁際の方にいるのが豆腐メンタルことカイザーに回が進むことに男前になって行く天上院

あの席にふんぞり返っているのが未来のサンダーこと万丈目  
今デュエルリングでピンチになりながらも試験官に勝利したのが嫌われやすいカイザーの弟こと丸藤翔

そしてそんなデュエルを真剣な目で見ているのが未来のエアーマンこと三沢

…大体こんなもんか

『受験番号90番代の生徒はデュエルリングに集合して下さい。繰り返します。…』

おっともう順番か…

まあ楽しくいこうかな

今日のためにデッキを組んで…くんで…ないな

そういえば金のことで精一杯だったし一応筆記試験の勉強で忙しか

つたし…これヤバくね？  
シンクロ主軸のデッキなんだが…

俺オワタ＼（＾o＾）ノ

『案外余裕そうですねマスター』

「いやいやそんなことないぞ？顔に出てないだけでまじ焦ってるから脇汗ヤバイから。冷や汗より先に脇汗出るほどピンチだから」

『…それ熱いだけじゃないですか？』

「その可能性も無きにしも非ずだな」

『…やっぱり余裕そうですね』

急に話しだして困惑しているやつもいるだろうから説明してやろう！  
なんと俺にカードの精霊が付いたのさ！  
しかもなんと！男の娘だ！いいや女の娘だ！と日夜議論の絶えないあのエフエクトヴェーラーだあああ！  
きた！メイン精霊きた！これで勝つる！

『…あんまり変なこと考えてるとぶっ飛ばします』

「決定事項！？」

…まあこんな感じで冷たいです

ついでに始めて見た？会った？ときになんで俺の精霊なったの？と聞くと『デッキで喋ることのできるモンスターが私だけですかから仕方なく私です』というありがたいお言葉を頂いて嬉しさのあまりその夜は枕を涙で濡らしました  
ついでに大抵気づいていないだけで一人に一人？は大抵精霊がいるかもしれないらしい。結局どっちだよ！というツツコミは余りにヴェーラーさんがダルそうなのでツツコむことが出来ませんでした  
『それよりいいんですか？そろそろ試験では？』

その言葉を聞いて俺は走り出した

「という訳で試験場に到着しました」

『誰に言ってるんですか？』

「画面の前の以下略」

「…始めてもいいかい？」

「あ、はい。」

「それでは」

「「デュエル！」」

「俺の先攻みたいです。俺のターンドロー！」

この先攻後攻はディスクが判断している。勿論早いもん勝ちでは断じてない

さて、手札はどんな感じかな？…：…そういえばシンクロデッキでしたね。まあシンクロしなくても一応大丈夫なように作ってある。なんとかなるでしょう

…：…どうしてワンキル可能な手札なのか。果てしなく疑問である。…：…そんなデッキではない筈なのだが…：これが世に聞く世界の修正力か…：…！

『アホなこと考えてないで進めたらどうですか？』

「どうしたんだ？手札事故か？」

ふむ二人ともせっかちな。少しくらい考えてもいいじゃないか。まあ進めましょうか

「俺はモンスターもセツト。ターンエンドです」

どう見てもライコウ又はリクルーターに準ずる何かで本当に以下略

「あれだけ考えてモンスターをセツトするだけとは、本当に事故だつたらしいな」

「はい。その通り事故です」

嘘ですサーセン

「ふむ。例え君が事故を起こしていても試験なのでね。手は抜かずに行かせてもらおう。私のターンドロロー！」

流石グラスンですね。声が洪くて良いですね  
ついでにこの世界はライフは4000ですよ？

「私は手札から切り込み隊長を召喚！さらに切り込み隊長の効果により手札から二枚目の切り込み隊長を特殊召喚！」

…なにそのガチロック。どう見てもこの世界のデュエリストレベルと釣り合っていないでしょうに。というか明らかにさっきまで見てた試験とレベルが違うのですが…後ろの方からなんかあいつ90番代に使う試験用デッキじゃないぞ！とかきこえるんですがどうなんですか？」

「ふむ。どうやらデッキを変えるのを忘れていたようだ」

「そんな冷静に言われても」



いやまあ別に問題無いんだけどね？

「続けよう。私は切り込み隊長でセットモンスターを攻撃！」

切り込み隊長の攻撃により俺のセットモンスターが姿を現す

「残念ながら俺のセットモンスターは戦闘では破壊されないスクラップ・ゴブリン！」

屑鉄で出来た小人のようなモンスターが切り込み隊長の攻撃を防いだ

「成る程、破壊耐性を持ったモンスターか…ならば私はカードを二枚セットしターンエンド」

そう。俺のデッキはスクラップデッキ。中々丁度いい相手にしても真六武やジャンドみたいに圧倒的ではないと評判のスクラップである。

俺自身前世？で遊戯王を一度やめて高校に入って又やり出した時に一番最初に当てたレアのカードがスクラップ・ドラゴンなのでかなり愛着がある

まあこの世界だとスクドラは使えないけど…

ついでにさっきのスクラップ・ゴブリンには他にも効果があり表側守備表示のこのモンスターが攻撃対象に選ばれた時破壊される効果があったからさっき二回目の攻撃があったら危なかった  
まあ効果を聞かない方が悪いんだし良いでしょう

「それじゃあまあ俺のターンで。ドロー！」

「この瞬間、トラップ発動！グラヴィティ・バインダー超重力の網」

…どう見てもこの世界なら通用する処かガチデッキです本当にありますがどうぞいます

「その効果によりお互いのプレイヤーはレベルが4以上のモンスターで攻撃出来ない。更に私の場の切り込み隊長のお互いの効果によりお互いを守っているそれによって君は攻撃宣言すら行えない」

じゃあ何故バインドを張ったし

「まあ念には念をとっちゃつだ」

「というより俺の心チヨイチヨイ読んでませんか？」

「鏡を見てきなさい」

暗に顔に出ていると言われた

「…続けます」

まあ勝てるしいつか

「手札から魔法カードハリケーンを発動！」

「なにっ!?!? (私のグラヴィティ・バインドと奈落の落とし穴が!?)」

フィールドを竜巻が襲いフィールドの魔法・罠カードを手札に戻して行く

勿論ハリケーンなんか使ったってことはこのターンで勝負をつけます

「クツ！だがグラヴィティバインドが無くなるうとも君は切り込み隊長の効果により攻撃宣言を行えない！」

「そんなのはしっています。それにそのロックには弱点がある」

「なにっ!？」

「俺はスクラップ・ゴブリンを対象に速攻魔法！スクラップ・スコールを発動！この効果により俺はデッキからスクラップと名のつくモンスターを一体墓地に送りデッキからカードを一枚ドロウする！その後対象にしたモンスターを破壊する！」

「なにをするかと思えば自分のモンスターを破壊しただけじゃないか」

「まだ続きがあるに決まっているでしょう。破壊されたスクラップ・ゴブリンの効果発動！スクラップ・ゴブリンはスクラップと名のつくカードの効果によって破壊された時墓地にあるスクラップと名のつくモンスターカードを一枚選択し、そのカードを手札に加える事ができる。その効果により先程墓地に送ったスクラップ・キマイラを手札に加える！そして手札よりスクラップ・キマイラをコストにワン・フォー・ワンを発動！その効果によりデッキ又は手札からレベル1のモンスターを一体特殊召喚出来る。こい！レベルステイラー！そしてレベルステイラーをリリース もとい生贄に捧げ、出でよ！スクラップ・ゴーレム！」

俺がカードを置くと目の前に屑鉄で出来たゴーレムが出てきた。改めて思うけどリアルやな

「結局何がしたいんだ？あれだけやって結局は上級モンスターを一体召喚しただけ。さらにどれだけ上級モンスターを呼ぼうとも切り込みロックを抜けることは出来ない！」

あつ切り込みロックって自分で言うのか

「まあ慌てないで下さい。これであなたの切り込みロックを突破する準備は残すところ後少しです」

にしてもなんでこんなウザい口調で喋っているのか自分で理解不能すぎる

「ほう。ならば突破してみる！」

「了解です。おれは手札から死者蘇生を発動！墓地よりスクラップ・キマイラを蘇生させる！来い！スクラップ・キマイラ！」

宣言と共に俺の目の前に幻想の生き物であるキマイラが屑鉄の姿で現れる

「ほう。それでどうするつもりだ？」

画面の前の皆ならもう分かるね？

「俺はスクラップ・ゴーレムの効果を発動！俺の墓地に存在するレベル4以下のスクラップモンスターを蘇生する！」

「だが君の墓地には破壊耐性を持つ攻撃力ゼロのスクラップ・ゴブリンしかない筈だ。そんなモンスターを蘇生してどうするつもりだ？」

甘い甘い甘い甘ああああい！

「その通り。俺の場に今蘇生しても意味はありません」

「ならば一体」

「誰が俺の場に蘇生すると言いましたか？」

「何？」

「俺がスクラップ・ゴブリンを蘇生させるのはあなたのフィールドです！」

「何！？相手の場にも蘇生させる事ができるのか！？」

「はい。スクラップ・ゴブリンを攻撃表示であなたのフィールドに特殊召喚！いけ！スクラップ・ゴブリン！そして切り込み隊長がロツクするのは戦士族への攻撃宣言のみ！スクラップ・ゴブリンは獣戦士族だ！」

「クツ！私の切り込みロツクを突破しただと！だがそれでも君のモンスターは攻撃力は2300と1700。すべての攻撃が通れば私を倒す事が出来るが、一体の攻撃でスクラップ・ゴブリンは破壊され、そしてまた切り込みロツクの穴は無くなる。そして次の君のターン私は又グラヴィティバインドを張り直す。それでまだ勝負分らない！」

「何を言ってるんですか？」

「何？」

「あなたも言っていたじゃないですか。『君の墓地には破壊耐性を持つ攻撃力ゼロのモンスターしかいない』と」

「あ」

「という訳でこれでフィニッシュです。スクラップたちよ！スクラップ・ゴブリンに一斉攻撃！スクラップ・パーティー！」

攻撃命令と同時にスクラップモンスターの体の至る所から屑鉄の破片が飛び散りスクラップ・ゴブリンに全て着弾した。と思ったら全てゴブリン避けてプレイヤーに着弾していた

まあご愁傷様

「良く私の切り込みロックを突破して勝利を収めた」

「ありがとうございます」

「試験の結果は後日発表されるだろう」

「わかりました。ありがとうございます。」

何時の間にか近くにきていた試験官と話をして観客席に戻る

『よく勝てましたね』

「本来ワンキルデッキじゃ無いんだがなあ。運がよかったのと、ライフ4000に救われたな」

『ですよー』

まあ一応勝ったし合格したろ

その後観客席で見たら我らが主人公未来のヘルガツチャこと遊城十代が現れた…横に明らかに転生しました俺オリ又シですと言わんばかりの超イケメンを連れて…他にも居るんだなとか思ってたら十代とそいつが試験を開始していたのだが…勘弁して欲しい。そいつが堂々とシンクロを使い更に何故かアクセルシンクロやバーニングソウルを使っていた。

もうシンクロは使えんかもしれんなあ

## ブログ兼第一話 スクラップ使いのオリ主がない？いないなら作れば良い

読んで下さって大変ありがとうございます

他の作品を書かない作者です

この作品は前書きにも書きましたが作者の受験勉強に対するストレスをぶつける場です

なので不定期更新です

それでも見続けるという方感謝します

作者は現実でもスクラップを使っています

楽しいですが何回もやっていると相手に呆れられます

お前は何回スクドラを出すきかと

今回の制限改訂で開闢が復活しスクラップがヤバイです

どうでしょうか

それでも開闢を1kで買っていた作者は勝ち組

以上作者の自慢話でした

今回の話はスクラップはシンク口無しでも十分やれるということを伝えたかったんですが明らかに無駄が多いです。リアルであんなことすれば返しにブラホで終わりです  
なので絶対に真似しないでください

今回の話をお読み下さり誠にありがとうございます

この作品は不定期更新ですが感想があるとモチベがあがります

それでも不定期更新ですが

もしかしたら感想があると次回からの文字数が増えるかもしれません  
まあいわゆるただの感想が欲しいだけのお願いです

次回もよろしくお願ひします



第二話 これはひどいと思ったあなた。リアルはもっとえげつない(前書き)

大体リアルはこんなのが横行してる

## 第二話 これはひどいと思ったあなた。リアルはもっとえげつない

試験の後、無事に合格通知をホテルでいただいたがよく住所とかわかったなあとか思いつつ届いた制服を見てみてもちろんオシリスレッドだったがこれはまあ予想の範囲内であつたのでシヨックはあまりなかった。筆記の結果があれだったからな。落ちてないだけよかったと思っておこう

そういえば俺がどうしてデュエルアカデミアを受験したか言つてなかつた気がしたので言っておく

そもそもこの世界ではカードが異常な価値を持っていることは前にも言つたような気がするしアニメとかを見ればわかるだろう。借金のかたにカードを持つていく取立て屋がいるくらいなんだからその価値はすさまじいの一言に尽きる。ということは好きなときに好きなだけカードを出せる俺は一生遊んで暮らせるかというところでもない

遊戯王DM編のときのことを思い出してほしい。レアカードハンターであるグルズなんていう組織があるのである。もちろんグルズ自体は壊滅しているがレアカードハンター自体がいなくなつたわけではないのである。下手にレアカードなどを売りさばくと眼をつけられてしまう可能性がる。仮にデュエルで強奪しにきた場合は何とかする自信はあるが暴力で訴えられたらどうしようもないのである。俺はいたつて普通の少し特殊な事情を除けば一般人だから暴力には即屈する自信しかない。・・・そういえば我らがヴェーラーさんは攻撃力ゼロだがそこんとどうなんだろう？

聞いてみるのが早いかな

「ヴェーラーさんよ。ヴェーラーさんは攻撃力ゼロだけど実体化して攻撃したらどんなもんなのさ？」

『はあ?』

俺の質問に不良のように反応するヴェーラーさんまじこわいっす

「いやだからあなた様は攻撃力ゼロでございますけど実際のところ  
どれだけの威力があるのかと疑問に思ったしだいでございます」

俺は断じて怖がってない。ただこれから行くアカデミアでの敬語の  
練習をしていただけである

『・・・さつきから黙ってたと思ったたらそんなこと考えてたわけ  
ですか?』

「まあ他にも考えてたけど」

『ふん。あっそうですか』

「それでさっきの質問の答えは?」

『精霊が実体化できると思ってたのか厨二病乙としか言いようが無  
いですね。現実を見てください』

「え、できないの?」

『むしろなんでできると思ってたのか知りたいですね』

「いやなんか特別な力とかこう精霊パワーで」

『特別な力とかwwできるわけ無いじゃないですかww』

・・・草をはやされました……。でもそうになるとブラマジガールとか原作で実体化とかしてたような

『そもそもカードの精霊というのはカードを通じて現実世界を覗き見ている状態なだけでこつちに完全にこれるわけじゃないですから』

「そうなの？」

『はい。まあさつきは馬鹿にするためだkゲフンゲフン言葉のあやで特別な力は無いといいましたが種族とかではもっていたりします。まあ私は持っていませんが。上位の魔法使い族の方とか特別な事情を持ったモンスターの方々は持っていたりします』

なにかおかしな言葉が聞こえた気がしたがきつと気のせいだろうと思うだろう。それでも思わないとまた枕がぬれてしまう

『現実には実体化ともなるとカードとは別口で何かの力が必要になります。実体化とかなら使える魔法使い族の方もいますが私はむりですな』

まあそれはそうか。それでもなければもつと現実派カードの精霊であふれかえっているわな。それに自分で実体化できるなら十代とネオス涙目だしな

『それよりもいいんですか？』

「なにがだ？」

『今まで面白かったので黙ってましたがそろそろ満足したので言い

ますが・・・」

「なんだ？」

やけにもつたいぶるな。なにかそんなにおかしいことでもあった？

『今のマスターは誰もいない空間に話しかけているただの変人ですよ（笑）』

今の俺はアカデミアに向かって船で移動中であるからして本来ならデッキにいるのでアカデミアに向かう生徒であふれているのだが気づけば俺の周りには不思議な空間が空いていた。俺の高校生活は前途多難だと今更ながら涙ながらに思った

「というわけで到着ですかね」

『なにがとういうわけですか』

そんなことをヴェーラーさんと話しながら始業式を終えて歩いてい  
ると俺が住む場所、つまりレッド寮へ到着した・・・が・・・

「・・・思ったより普通だな」

『どっだけぼろいと思ってたんですか』

「いやそうなんだけどさ、周りにいた生徒達の話の中とかでもかな  
りボロイみたいなことを言われてたのに案外普通のアパートみたい  
な感じだからさ」

まあ海とアパートで超ミスマッチなんだがな

「そして俺の部屋になぜか誰もいない件について」

自分の部屋に着き、入室した結果がこれだよ

『まだ帰ってきてないだけじゃないですか？』

確かにその可能性は無くはないしかしだ

「部屋に荷物が俺の分しか無いのはさすがにおかしい」

そう。本来なら部屋の住人たる新入生の荷物が届いているはずである。俺のだけ先に付くわけが無いしこの部屋は三人部屋、仮に遅れているとしても二人分、しかもこの部屋のやつらの分だけ固まって無いというのはさすがにおかしいでしょう

「ほのかに香る薬の臭い・・・これは事件かつ・・・！」

『ほのかに香る馬鹿の臭い・・・これが私のマスターかつ・・・！』

明らかに俺を馬鹿にしているその言葉。せめて突っ込んで欲しかったです

「その臭いはバルンの臭いだにや〜。事件なんて起きない・・・と思いたいにや〜」

俺達が馬鹿をやっていると後ろからかかる声。そしてこの男の声とわかるのに高く、そしてこの特徴的な語尾・・・こいつは・・・！

『その・・・、三点リーダはブームですか？』

とっても便利な文字数稼ぎ。これさえあれば驚きもひらめきも思いのままに

「なんでもいいからこっちを向いて欲しいにや〜(汗)」

まあさすがにずっと後ろを向いているのは駄目だろう。明らかに誰かわかるけど

「はじめましてだにや〜。このレッド寮の管理人。大徳寺だにや〜。

これからよろしくなのによ〜」

「こちらこそはじめまして。柊 優樹です。この部屋には何の用で？」

というわけで俺の後ろにいたのは干からびるアムナエルこと大徳寺先生でした。それにしてもなんのようだ？この人って歓迎会で初登場じゃなかったか？

「それはこの部屋についてだよ〜」

「この部屋について？」

「そうなんだによ〜。この部屋は元々三人部屋なのは知っているにや？」

そう。だから考えているのである。はっそういえば犯人は現場に戻るといっしまさかこいつが！

「私は犯人じゃないによ〜」

そして再び読まれる俺の心。あれか。俺の心はいつもいつでもオーブンチャンネルですか。もしくはおれがさとられ説

「君の無駄な思考は置いておいて、この部屋は君一人の部屋になったのによ〜」

「え。なんですか？」

「理由はオシリスレッドだからによ〜」



え、わけワカメなんですけど。俺はさとられである可能性があるだけで覚りじゃないから心は読めないんですが。明らかに説明不足。お前らみたいに行で考えが伝わると思うなよ！

「補足説明として、この寮の卒業後の進学、もしくは就職率は低いのにゃ〜。だから狭き門を突破してもこの寮に配属されたというだけで退学する生徒もいるのにゃ〜。だからこの部屋は君だけのへやになってしまったのだにゃ〜」

なるほど。早い話未来の無い寮に配属されてだったら辞めてやんよという精神の元辞めていったわけですね

「毎年少しはいるのですが、同じ部屋の人というのは初めてでしばらくの間は君の一人部屋になってしまったんだにゃ〜」

なるほどそういうわけか。なら仕方ない。というわけで用が済んだなら帰ってください

「もう読まれること前提で考えているにゃ〜。まあ問題ないからいいけどにゃ〜。というわけで伝えたのでかえりますにゃ〜」

はい。さようなら

「せめて口で伝えて欲しいn（ボタン！）」

さらばにゃんこ先生。俺の心の平穩のため犠牲になってもらう

『とりあえずしゃべりましょつよ』

「さとられごっこも飽きたしいけどさ」

それにしてもどうしてそんなに心が読まれるのか。そんなに顔にでてるかな

『むしろ顔がカンペ』

「それは例えなのかけなしているのかこわいから聞かないけどさ」  
そして俺はベッドにダイブからの

「くあwse d r f t g y ふじこ1 p ; @」

『またやってるよ・・・』

なにをしているかわからないって？  
ならば教えよう。悶えているのである  
え？なにに悶えているかって？  
それは

『・・・スクラップパーティ（笑）』

「くあwse d r f t g y ふじこ1 p ; @」

というわけでこの前の試験でテンションが上がり新しく作られた黒歴史を今こうやって身をもって実感しているのですよ。さらには悶えだすとヴェーラーさんの心寒くなる追撃のおかげで俺のこの寒きパトスは誰にも止められない。この部屋が一人部屋になってよかつた・・・もし三人部屋だったらきつと発狂していただろう  
既に発狂してるとか言っではいけない

『・・・スクラップゴーレムの効果発動！（キリッ）』

「くぁ Wse d r f t g g y ぶじじー p . . @ . .」

・・・おそろくー生ヴェーラーさんには反抗できまい

そして歓迎会も終わり就寝時間。 え？歓迎会？メザシ食って終わり

だよ。ほかにもあるだろ？ねーよ。あつたとしてもアニメどおりだよ。展開を描写しろ？アニメ見るJK。まあ違うとしたらオリ主君位かな。やけに親しげにガツチャ君に絡んでいた。そしてめんどくさがられていた。目が飯食わせろって語っていたのに離しかけるオリ又シ君には脱帽です。俺にはできませんそして就寝します

『いやいやまだ十時ですよ？寝るには早いでしょうよ』

「なにいつてんだいヴェーラーさん。今寝れば確実に八時間寝れるんだよ？寝ようぜ？とりあえず寝よ？考えるのは起きてからでもできるじゃん？寝ようぜ？な？」

『どんだけ必死なんですか・・・』

「こんだけ。もうね、眠いの。疲れたの。さすがに初日だから疲れたの。だから眠らせて下さいお願いしますzzz・・・」

『早っ！』

今の俺は光すら超える

・・・がやがや・・・がやがや

・・・るっせーなんだこらぁー俺の睡眠を妨げるやつぁ

『呂律が回ってませんよ』

「しゃべってないのに呂律とはこれいかに」

ヴェーラーさんはより正確に俺の考えをさとれるようです

「そしてこのうるさはなんですかね」

『どうやら外で騒いでるようですな』

「外で？」

おいおいこんな夜更けに・・・夜更け？・・・夜更けでいいや。夜更けに騒ぐとか近所迷惑考えろし。時計を見たら零時前。死ぬ夜更け

であってよかった

『さらっと死ねって言いましたね。まあいいですけど。私も起こされて迷惑ですしね』

おおヴェーラーさんと気が合うとは。俺は明日死ぬかもしれんなんでもないですごめんなさいだからこっち見ないでください

『見に行つて来い』

「行つて来ます！」

俺に拒否権と人権は今しがたなくなった

「だから俺も行くって!」

「いやだから寝てるって!」

「いやだから」

「いいから」

・・・なんぞこれ

目の前には言い争って絡み合う二人の男子プラス取り巻き一名。まあガツチャと富士山とオリヌシ君なわけだが

富士山つてだれって?ただの雑魚です。それ以上でも以下でしかない。まあ嫌いじゃないけど今は実際に弱いのでスルー。それでも正体が気になる人はウェブページにアクセス!

「あ!いいところに!柊君!二人を止めてよ!」

「まあうるさくて眠れないから止めにきたんだが・・・あいつらってそついう仲?」

俺に気づいたのか話しかけてくる翔。ウェブページは実はここという罠

「そついう仲じゃないっす!」

「じゃあなにしてるの?」

「実は・・・(以下略)」

「はーん。つまり十代が呼び出される、行くとする、なぜか付いてきたがる同室者、ウホッいいデッキ！、よろしいならばスルーだ、今ここ？」

「だいたいあってるっすけど細部が違うから全く伝わってこないっす」

こまけえこたあきにすんな

「お！おいお前！いいところに、助けてくれ！」

ここだけ聞くとどう考えても襲われる五秒前

「おい無視すんなよ！」

「だそうだメガネっ子」

「ぼくじゃないっすよどう聞いても。それに僕は翔って言う名前が「なんでもいいから助けてくれー！」だそうっす」

だそうっすじゃないよ。お前も割かし余裕あんのな

「早くー！」

「だから俺も付いてくって！どうせ道わかんないんだろ？」

「昼間行ったからわかるっつーのー！」

「おいおいここはデュエルアカデミアだぜ？そういつときかはどっす



るんだよ」

「急いでるから今はいい！だから助けて下さい！」

おおつ。えらく俺の知ってるガツチャと違うな。デュエル、しかもまだこの世界に無いシンクロとのデュエルを拒むとは。・・・まあ俺の知識なんてほぼ九割SSで得たんだが

『早く静かにさせなさい。さもないと「おいやめないか君達！深夜に迷惑だろう！」

「あんただれっすか」

命の前には人は自分を捨てても生き残らなくちゃいけないと思う。だからヴェーラーさん勘弁してください

「うるさい！部外者は引っ込んでろ！」

「・・・引っ込んでいいですk『鎮压制圧しろ』Yes！ママ！」

・・・俺も眠いの・・・

「というわけで静かにしろ、俺の安眠のためにそしてママのため」

「どついうわけだよ・・・とりあえず助かったぜ。サンキューな！」

ひとまずオリヌシを引っpegがして助け出してみた。・・・それにしてもオリヌシって名前みたいになっ来たな

「おい！じゃますんな！」

そして叫び続けるオリヌシ君。お前ののは化け物か

「じゃあ後は頼んだぜ！」

え

「よろしくっす！」

え

「俺のジャマしやがって……ただで済むと思うなよ？」

え

『ちっちと沈める』

え

「デュエル！俺の先攻！ドロー！俺は手札から魔法カード調律を發動！このカードはデッキからシンクロンと名のつくモンスター一体を選択し、手札に加え、その後、そのレベル分デッキの上から墓地に送る。俺はジャンクシンクロンを手札に加える！俺は手札を一枚墓地に送り手札からチューナーモンスタークイック・シンクロンを特殊召喚！現れる！クイックシンクロン！さらにさつき墓地に送ったレベルステイラーの効果発動！フィールド上に存在するレベル5以上のモンスターのレベルを一つ下げ墓地から特殊召喚できる。俺はレベル5のクイックシンクロンのレベルを一つ下げレベルステイラーを特殊召喚！俺はさらに手札からドッペルウォリアーを特殊召喚！このモンスターは墓地からモンスターが蘇生に成功したときに手札から特殊召喚できる。そして俺はレベル2ドッペルウォリアーにレベル4のクイックシンクロンをチューニング！集いし力が大地を貫く槍となる。光さす道となれ！シンクロ召喚！砕け、ドリル・ウォリアー！そしてシンクロ素材にされたドッペルウォリアーの効果発動！このカードがシンクロ素材にされたときフィールド上にレベル1のドッペルトークンを二体特殊召喚する。現れる！ドッペルトークン！さらに俺はデッキトップを一枚墓地に送り墓地からグローアップバルブを蘇生させる。俺はレベル1ドッペルトークンにレベル1のグローアップバルブをチューニング！集いし願いが新たな速度の地平へ誘う、光さす道となれ！シンクロ召喚！希望の力、

シンクロチューナー、フォーミュラシンクロン！フォーミュラシンクロンの効果発動！俺はデッキからカードを一枚ドロウする。さらに俺はレベル6ドリルウォリアーにレベル2シンクロチューナーフォーミュラシンクロンをチューニング！集いし願いが、新たに輝く星となる。光さす道となれ！シンクロ召喚！飛翔せよ！スターダストドラゴン！さらに俺は手札からチューナーモンスタージャンクシンクロンを召喚！ジャンクシンクロンの効果発動！墓地に存在するレベル2以下のモンスターを蘇生させる！こい！フォーミュラシンクロン！クリアマインド！レベル8シンクロモンスタースターダストドラゴンにレベル2シンクロチューナーフォーミュラシンクロンをチューニング！集いし夢の結晶が新たな進化の扉を開く。光さす道となれ！アクセルシンクロ！！生来せよ、シューティング・スター・ドラゴン！！そして俺はレベル1レベルスティーラーに、レベル3ジャンクシンクロンをチューニング！シンクロ召喚！アームズエイド！アームズエイドの効果発動！1ターンに一度このカードを装備カード扱いとしてフィールド上のモンスター一体に装備することが出来る。装備しろ！シューティングスタードラゴン！アームズエイドの効果によって装備されたモンスターの攻撃力はプラス1000される！俺はカードを二枚伏せてターンエンド！」

.....

え、なにそれ怖い

第二話 これはひどいと思ったあなた。リアルはもっとえげつない（後書き）

最後に全力を尽くした

投稿しなかったのはストレスがたまらなかつたから

待っていてくださった方がいたならありがとうございます

これからも続けますのでお願いします

感想受付直しました。今まで申し訳ありませんでした

感想は欲しいですはい

### 第三話 ガチプラスチート!!これなんて無理ゲー(前書き)

遅くなりました

理由は特に無いあたり余計に救えませぬスイマセン

今回の内容についてはどうしてこうなったとしか言い様がありません  
・・・オリヌシはかませ犬のはずだったのになあ

### 第三話 ガチプラスチートⅡこれなんて無理ゲー

さてはて皆さんご機嫌いかがかな？俺は今とってもピンチになっているのさ。え？どういふ具合にピンチなのかって？それはね？

場：流星、ドッペルトークン、アームズエイド（流星に装備済み）  
バツク2

手札：3

ライフ：4000

・・・信じられるか？これ・・・俺にターン回ってきてないんだぜ？

「どうした！お前のターンだぞ！」

・・・俺・・・このデュエルが終わったら死んだように眠るんだ・・・

『早くやれ』

「さあどうした！」

外野がうるさいのではじめようと思うだがその前に

「デッキ取りに行ってきたまーす」

だって俺出てきたばっかだもの。さっきまで寝てたもの

目の前の相手がポカーンしてるが気にしない



そういえば俺がどうしてデュエルアカデミアを受験したか言っていなかった気がしたので言っておく

そもそもこの世界ではカードが異常な価値を持っていることは前にも言ったような気がするしアニメとかを見ればわかるだろう。借金のかたにカードを持っていく取立て屋がいるくらいなんだからその価値はすさまじいの一言に尽きる。ということは好きなときに好きなだけカードを出せる俺は一生遊んで暮らせるかというところでもない

遊戯王DM編のときのことを思い出してほしい。レアカードハンターであるグルズなんていう組織があるのである。もちろんグルズ自体は壊滅しているがレアカードハンター自体がいなくなっただけではないのである。下手にレアカードなどを売りさばくと眼をつけられてしまう可能性がある。仮にデュエルで強奪してきた場合は何とかする自信はあるが暴力で訴えられたらどうしようもないのである。俺はいたって普通の少し特殊な事情を除けば一般人だから暴力には即屈する自信しかない。

「おい何をやっている！早くしろ！」

『至急速やかにあいつを抹殺しろ』

・・・現実逃避って大事だと思わない？

「じゃあ気を取り直して俺のターン」

さて始まりました無理ゲーのお時間です挑戦者は私格が挑みます。そしてハンドを見ると・・・おや？勝てる気がしないでござる。まあ頑張るけどさ

「俺はカードを3枚セットしてターンエンド」

「ふん。シンクロ召喚の前に手も足も出ないか」

そりやでねーよ。この時代で手も足も出たらそりや主人公達だけだろうな

「俺の邪魔をした罪を償ってもらおう。俺のターン！」

相も変わらず元気がいいですね。お前ののはマジでどうなってるだよ

「俺はシューティングスタードラゴンを対象に墓地のレベル・ステイラーの効果を発動！対象にしたモンスターのレベルを一つ下げること墓地から特殊召喚できる！レベル・ステイラーを攻撃表示で特殊召喚！さらに俺はシューティングスタードラゴンの効果発動！デッキの上からカードを五枚めぐり、めぐった中のチューナーの数だけシューティングスタードラゴンは攻撃することができる！」

「ワースゴイナー」

はいはい普通は五枚出ないけどどうせ出るんだろ？もういいよ以下略で

「まず一枚目チューン（ry五枚目！チューナーモンスターハイパーシンクロン！でたチューナーの数は五枚！よってこのターンシューティングスタードラゴンは五回の攻撃権を得る！」

・・・もう何も言つまい

「バトル！シューティングスタードラゴンで直接攻撃！スターダストミラーージュ！」

目の前で五体の色とりどりのシューティングスタードラゴンが出来る。どうみても戦隊ヒーローです本当に以下略。そしてところがどっこいそう簡単にやられる気は無いんですよ

「畏発動！強制脱出装置！対象はシューティングスタードラゴン！」

シンクロ召喚が出てからとても強くなった気がする一品強制脱出装置。破壊じゃなくバウンスなのが強いしシンクロはエクストラデッキから特殊召喚するからハンドに戻らずに1：1交換ができるのが魅力的な一品です。メンタルスフィアデーモン？シエン？クエーサー？聞こえんな。それに逆に言えばそれ以外は大体何とかなるわけで

「強制脱出装置の効果発動！というわけでシューティングスターさん。ログアウトです」

「なっ！？」

流星がリアル流星となって飛んできましたとき。

「バカな！？こんなに簡単にシューティングスターがやられるだど！？しかもこの時代のオシリスレッドなんかに！」

いやいや強脱くらい入れてるやつもこの時代にいるだろ。・・ピンポイントに当てられるかは知らんが。ついでにオシリスレッドはお前もナー

「ついでに装備されてたアームズエイドも破壊ナー」

「なっ!?!」

俺の指摘と同時に流星の手から離れていたアームズエイドさんが破壊された

というよりどんだけ驚いてんだよ。俺もまさか何の妨害もしてこないとは思ってなかったけどな。おそらくオリヌシ君の使ってるカード群を見る限りジャンドかな?でもジャンドならさっきの状態なら迷わずクエン酸一択だし出さなかったってことは自分で改造したのかな?まあジャンドみたいに動くと考えればいつか

「それで?他にはなんかある?」

「くっ、俺は手札から戦士の生還を発動!このカードの効果によって墓地より戦士族モンスターを一体手札に戻す。俺はジャンクシンクロンを選択!そして俺は手札に加えたジャンクシンクロンを召喚!効果により墓地に存在するドツペルウオリアーを特殊召喚!俺はレベル2ドツペルウオリアーにレベル3ジャンクシンクロンをチューニング!集いし星が新たな力を呼び起こす。光さす道となれ!シンクロ召喚!いでよ、ジャンク・ウオリアー!そしてジャンクウオリアーの効果発動!それにチェーンしてシンクロ素材となったドツペルウオリアーの効果発動!まずドツペルウオリアーの効果によりドツペルトークンを二体特殊召喚!次にジャンクウオリアーの効果発動!その効果によって自分フィールド上のレベル2以下のモンス

ターの攻撃力の合計の数値分アップする！俺のフィールドには攻撃力400のドッペルトークンが三体、そして攻撃力600のレベルステイラーが一体。よってジャンクウォリアーの攻撃力はその攻撃力の合計、即ち、1800ポイントアップする！パワーオブフェローズ！これによりジャンクウォリアーの攻撃力は4100！俺は特殊召喚していないドッペルトークンを守備表示に変更しターンエンド！さあ、お前のターンだ！」

・・・一言感想があるとすれば長い一言に尽きるなお前何分動く気だよずっと俺のターンですかこの野郎。そしてお前のどすげーな、何回も言っけど。

「じゃあ俺のターンな。ドロー」

これ見た後つてやる気で無いよな。やるけどさー

「というわけでブラック・ホールはつつどーう」

まああんなに展開する方が悪いっしょ。とか思っていると相手の顔がいかに擬音でニヤツとでも付きそうな顔になった

「それを待っていた！！畏発動！スターライト・ロード！！」

待ってのかよ。ブラホ待ちとかなかなか計画性の無い。ブラホとか制限カードだから引く確立結構低いのに、冷静に考えてデッキが40枚だとして最初の5枚プラスドロー×ターン数だから今の状態でも34分の1なのに・・・と思うじゃん？大抵引いて欲しくないときに引かれているのが制限カードたる所以なのさ。まあ嘘だけど。でも経験がある人は多いんじゃないだろうか。そしてそれをあえて待っていたとなると計画性が無いというかあるというか。まあ勢い

任せの発言だと思いたいが

「スターライト・ロードの効果発動！自分フィールド上に存在するカードを2枚以上破壊する効果が発動した時にその効果を無効にし破壊する！その後、「スターダスト・ドラゴン」1体をエクストラデッキから特殊召喚する事ができる！飛翔せよ！スターダスト・ドラゴン！」

フィールド上に黒い全てを飲み込んでしまうような穴が出現したと思っただ途端、その穴を突き破り星屑の煌く龍が姿を現した、その姿は見るもの全てを魅了するような穢れの無い純白の龍。でもまあ

「はいはい神警神警」

許さないんですけどね

「なっ!?!」

チエーン処理によって神の警告によってスターライト・ロードが無効にされ星屑龍はそもそも出現していないことになり、先程破られた黒い穴が復活、そのままフィールドのモンスターを全ての見込み姿を消していった。ていうかスルーしたけどスタダ2枚めとか勘弁してくれよ。ついでに神の警告はこの時代にも存在する。まあライフコストが初期の半分の2000。神の宣告ならばライフコストがライフの半分と重くてもいつでも使えるからわざわざかながらにも採用者がいるが、神の警告は固定のライフコスト、しかも2000というライフが重要視されるこの世界ではありえないといっても過言では無いほどのコストが必要であり採用者がほとんどいない。それでも神と名が付くようにかなりの性能があるが、その名前ゆえに残存数がかなり少なく、それも使用者の少ない一因となっている

「くっ！」

「じゃあこのまま続行な。俺はスクラップビーストを召喚。何かあるか？」

「・・・何も無い」

「じゃあバトル。スクラップビーストで攻撃！スクラ・・・何かあるか？」

危ない危ない。攻撃名を危うく叫ぶところだった。どうしても叫びたくなっちゃうんだよな。ヴェーラーさんに遊ばれないようにもう絶対に言わないと心に決めたことを忘れるところだったぜい

「この瞬間畏発動！スクリーン・オブ・レッド！」

スクリーン・オブ・レッドだと？

「このカードの効果によって相手は攻撃宣言を行うことができない！よってスクラップビーストの攻撃は無効！」

その言葉とともに飛び掛ろうとしていたビーストは急に止まる、が

「無効になるのは攻撃宣言だから今更遅いよ。というわけで攻撃続行」

「なんだと！？」

俺の言葉で再び攻撃を開始するビースト。つーかすげえなK社。

完全に言葉で立体映像が反応してやがる。というか俺が知ってたからよかったけどもし知らなかったらそのまま攻撃しなかったのか？それでいいのかKC社。これってルールだよな？不安になってきたんだが。そして相手はそのことを知らなかったんかい。めちゃくちゃ驚いてるんだが？それにジャンドにスクリーン・オブ・レッドだと？どついうことだってばよ

「ぐあっ！」

そして決まるビーストの攻撃

「なにかあるか？」

「・・・なにもない」

「じゃあ続行。メイン2でカードを一枚伏せてターンエンド」

ふむ。どうして入っているかはなんとなくわかりそうだ。そしてそこそこというよりかなりななんとかなってしまっただな。初期手を見た感じだと勝てる気がしなかったがこれならそこそこいけ「俺のターンドロ―！俺は手札から強欲な壺を発動！効果でカードを二枚ドロ―できる！」ませんよねわかってましたよ畜生め・・・つかそついいえは使えたんだよな強欲な壺。こつやつて使われると気分的に辛いものがあるな。何もしてないのに相手のハンドが増えるとか・・・まあ実際に辛いんだが

「そしてワンフォーワンを発動！手札のダンディライオンを墓地に送り、デッキからレベル1のスポーアを特殊召喚！そして墓地に送ったダンディライオンの効果発動！その効果によりレベル1の綿毛トークンを2体特殊召喚！さらに俺は手札からデブリ・ドラゴンを



召喚！デブリ・ドラゴンは召喚に成功したとき墓地に存在する攻撃力500以下のモンスターを特殊召喚することができる！蘇れ！ダンディライオン！そして俺はレベル3ダンディライオンとレベル1綿毛トークンに、レベル4チューナーモンスターデブリ・ドラゴンをチューニング！王者の鼓動、今ここに列をなす。天地鳴動の力を見るがいい！シンクロ召喚！我が魂、レッド・デーモンズ・ドラゴン！そしてシンクロ素材となったダンディライオンの効果発動！ダンディライオンの効果によりレベル1の綿毛トークンを2体特殊召喚！」

そしてここまで布陣が整えば後はなにが来るか相手がオリヌシで試験会場で見たことを考えれば予想できるな。そしてそこから導き出される答えは・・・詰んだな、これは。相手のハンドは一枚。これなら俺のターンが回ってくれば何とか・・・ならないな。だってオリヌシ君めちやくちやいい顔してるもん。まあシンクロできないから打点で勝てないしレモンが出てきた時点で大分やばかったがもう無理だな

「俺は手札から魔法カード死者蘇生を発動！その効果によって墓地からスターダストドラゴンを特殊召喚！蘇れ！スターダスト・ドラゴン！」

さつきも言った気がしたがもう一度言っておくでしょう。大抵引いて欲しくないときに引かれているのが制限カードたる所以なのさ。こんな感じに

「俺はレベル1綿毛トークンに、レベル1チューナーモンスターポリアをチューニング！集いし願いが新たな速度の地平へ誘う、光さす道となれ！シンクロ召喚！希望の力、シンクロチューナー、フォーミュラシンクロン！フォーミュラシンクロンの効果発動！俺は

デッキからカードを一枚ドロウする。」

それも二枚あったのな

「俺はさらに罫カードスクリーン・オブ・レッドのもう一つの効果を発動！フィールド上にレッド・デーモンズ・ドラゴンが存在するときにこのカードを墓地に送ることによって墓地に存在するレベル1のチューナーモンスターを蘇生することができる。蘇れ！グローアップバルブ！そして俺はレベル1綿毛トークンにレベル1チューナーモンスターグローアップバルブをチューニング！集いし願いが新たな速度の地平へ誘う、光さす道となれ！シンクロ召喚！希望の力、シンクロチューナー、フォーミュラシンクロン！フォーミュラシンクロンの効果発動！俺はデッキからカードを一枚ドロウする！」

・・・もういいや。俺はもう何も言わん

「クリアマインド！レベル8シンクロモンスタースターダストドラゴンにレベル2シンクロチューナーフォーミュラシンクロンをチューニング！集いし夢の結晶が新たな進化の扉を開く。光さす道となれ！アクセルシンクロ！！生来せよ、シューティング・スター・ドラゴン！！」

そして再び現れる流星。先程の登場より光って見えるのは気のせい  
か、やる気満々に見えるのだが

「そして俺は手札から魔法カード、早すぎた埋葬を発動！その効果でライフポイントを800払うことで墓地よりモンスターを蘇生し、このカード装備を装備する。蘇れ！シンクロチューナー、フォーミュラシンクロン！」

まだこの時代じゃ制限かかって無いもんな。そして場にそろうのは2体のシンクロチューナーに王者の龍、そして流星。ここからの展開は簡単だな。なんかオリヌシ君が目を閉じて胸に手を当ててるし、手が光出してるし、むしろオリヌシ君が光りだしてるし

「荒ぶる、荒ぶるぞ！俺の魂が！バーニングソウル！レベル8レック・デーモンズ・ドラゴンにレベル3チューナーモンスタージャンクシンクロンとレベル1チューナーモンスターグローアップバルブをダブルチューニング！王者と悪魔、今ここに交わる。荒ぶる魂よ、天地創造の叫びをあげよ。シンクロ召喚！いでよ、スカーレット・ノヴァ・ドラゴン！」

王者の龍が四つの炎の輪に囲まれたと思ったら、その中から現れたの紅蓮の龍。さすが立体映像。迫力がはんぱないっす。そして2体のシンクロチューナーによるデルタアクセルシンクロプラスバーニングソウルでかなり強そうに見える。まあ変わらんのだが

「スカーレット・ノヴァ・ドラゴンの効果発動！スカーレット・ノヴァ・ドラゴンの攻撃力は墓地に存在するチューナーモンスターの数×500ポイント  
アップする！俺の墓地にはチューナーモンスターが八体、よってスカーレット・ノヴァ・ドラゴンの攻撃力は4000ポイント上がり、7500となる！」

神の攻撃力をあっさり超えちゃったよ、というより頭おかしい数字になってやがる

「俺は手札より大嵐を発動！フィールド上に存在する魔法、罫カードを全て破壊する！」

大嵐の効果によって俺のフィールドにのみ存在する魔法、畏カードが全て破壊される。破壊されたカードはリビデとスクラップスコール。チェーンでスコールを打てばアドが取れるがここから逆転できるカードは俺のデッキに存在しない

「スカーレット・ノヴァ・ドラゴンの攻撃！バーニングソウル！」

もちろん俺に対抗する術などなく、スクラップビーストが焼き尽くされると同時に俺のライフが尽きた音が鳴り響いた

「これに懲りたらもう俺の邪魔はするなよ、わかったな！」

そういつて俺の前から走り去っていくオリヌシ君。寮には戻らない

のか学校に向かつて走って行った。そして俺はそんなことはどうでもいいほど怯えている。なぜなら俺の後ろにさっきまで負のオーラをまとっていたヴェーラーさんから負のオーラを感じ取れなくなっていたからだ。そんな気配が消えるほど怒っているのだろうか。まあ仕方ないよな、普通に負けだし、シンクロとエクシーズを使えないことも差し引いてもどうしようもなかったし。とりあえずすることは

「脱兎の如く逃げるべし！」

謝る？なにそれおいしいの？仕方無くな？俺の残りのハンドビーストとオルトロスだよ？どないせーちゅーねん。まじで。これがスクラップ使いに伝わる三つの絶望の内の一つ、ハンドにビーストがきすぎる絶望だ。残り二つはビーストが一体も来ない絶望と、ビーストが全て除外される絶望である。とまあそんなことはおいておいて部屋に着いたので急いで入ってベッドに飛び込もうとしたら

『スピー、スピー』

「べたかつ！」

思わずツッコンでしまうほどべたないびきをかいて寝ているヴェーラーさんであった。どうりで気配がしないわけだよ畜生め。人を戦わせておいて一人だけ戻って寝てるのか俺の苦勞は一体。まあフルボッコにされたただだから見られてなくてほっとしているんだがな。とりあえず一言

「俺え……」

今夜も涙で枕を濡らしてしまいそうです

### 第三話 ガチプラスチート〓これなんて無理ゲー（後書き）

更新遅れてスイマセン

前書きにも書いてあります理由は特に無いですはい  
誠にスミマセン

内容についてはまじめに書いてる途中からどうしてこうなったとしか言いようがありません

最初はオリヌシ君は多少改造した遊星デッキ（笑）にする予定でした。書いている途中までそのとおりでした。おかしくなったのは参考に遊星のタッグフォースにおけるデッキレシピを見たときからでしょう。明らかにほとんどガチ仕様でどう頑張ってもシンク口の使えないスクラップでは勝率がほとんどありません。ほとんど無いだけで勝てなくはありません。なぜなら書き手の自分が手札から何から何まで決められるのだからそりゃあ勝てるでしょう。チートドロー連発すれば。でもそれだと全く持って現実味がありません。今回の内容を見て現実味なんか元々ねーよと思われた方。そんなことはありません。スクリーンオブレッドはさすがにありませんし、禁止カードなどもありえませんが、実際問題ジャンドなんてこんな感じですよ。10回やれば8回くらいこんな感じにぶん回されてワンキルです。実際はクエン酸がいるのでこれよりもっとひどいかもですね。最初の話に書いたとおり主人公は最強ではありませんむしろ周りが俺つえーを連発します。主人公はなるべく実際のハンド、引き運などを参考にしています。なのでこれからも要素所で負けるでしょう。さすがに負けたら死ぬとか、これからの展開が成り立たないときはいじるでしょうが、それ以外、今回のような特に関係のないときは普通に負けますのでご了承下さい

最後になりましたがこれからも不定期更新で頑張っていきたいと思  
います

これからもこの作品をよろしく願います

どうしてこんなにまじめに語ったのでしょうか？

これもストレスのせいだああああああああああ

#### 第四話 と思うじゃん？（前書き）

今回はなぜか投稿が早かった

答えは簡単コナミがデレたから

おいコナミがデレると俺の財布がツン期に入るんだが  
だれかこの関係性を証明して下さいお願いします





いの？ちよっ！また誤解されるから！というより今現在進行形で誤解されてるから！」

『まあ私がしゃべっても誰にも聞こえないのでどの道マスターの独り言なんですが』

「なん・・・だと・・・!?」

『そろそろオチも無いんで終りませんか？』

「せやな」

しかもオチも無いのに俺の友達率が減っていくこの無駄仕様。誰得だよ全く

そういえば俺がどうしてデュエルアカデミアを受験したか言っていなかった気がしたので言っておく

そもそもこの世界ではカードが異常な価値を持っていることは前にも言ったような気がするしアニメとかを見ればわかるだろう。借金のかたにカードを持っていく取立て屋がいるくらいなんだからその価値はすさまじいの一言に尽きる。ということは好きなときに好きなだけカードを出せる俺は一生遊んで暮らせるかというところでもない

遊戯王DM編のときのことを思い出してほしい。レアカードハンターであるグルズなんていう組織があるのである。もちろんグルズ自体は壊滅しているがレアカードハンター自体がいなくなったわけではないのである。下手にレアカードなどを売りさばくと眼をつけられてしまう可能性がる。仮にデュエルで強奪しにきた場合は何とかする自信はあるが暴力で訴えられたらどうしようもないのである。俺はいたって普通の少し特殊な事情を除けば一般人だから暴

力には即屈する自信しかない。

・・・え？このやり取りもう飽きた？じゃあそろそろ本当に進めてみようか

まあ暴力に屈するしかない俺は考えたわけさ。誰かに守ってもらえばよくね？と

実際このデュエルアカデミアというのはレアカードハンターのよ  
うな犯罪者から逃げるのに適している。アニメだと進入されまくり  
だが、それもセブンスターズのような異能力者集団や、教諭たちや、  
校長などが手引きしない限り、誰一人として進入することができな  
いようになっている。理由としてはまず一つにここが孤島であるとい  
うこと。これは簡単にこの島に来るには海を渡らなくてはならな  
いこと。そこまでして欲しいレアカードはそうそう無いだろう。そ  
れでもこの世界は侮れない。逆に考えれば海をわたればここは孤島  
逃げ場が無いことになってしまふ。だからこそ奪いに来るといっ  
てもいるだろう。そこで二つ目の理由

ここは我らが社長がオーナーだということ

これだけで世のレアカードハンター達はこの学校を標的にするの  
を止める。社長を出し抜いたところで最終的には報復されるのが見  
えているからな。それに社長がその程度の輩に出し抜かれるわけも  
無いからな。安心していられる。まあそれでも入ってくるやつは入  
ってくるわけだが、そういうやつらはその程度ではない輩な訳で、  
そんなやつらはカードハンターではないわけですよ。というわけで  
この学校に入るのを決めた訳ですよ。お金？そんなもん適当なカー  
ドを担保にお金を借りたに決まっていますでしょう。ネットオークシ  
ョン？個人情報漏れ怖い。お金返すの？返さない、以上！・・・誰  
に説明しているのか・・・まじめに独り言癖になって来たかな

ついでに寮についても説明しようと思う。まずはなぜか入るとエリート思考に洗脳されるオベリスクブルーから。この寮は大体アニメと一緒に。一部本当にエリート、ほとんど雑魚、こんな感じ。何を思っただけなのにアド損がしたいのか理解に苦しむレベル。そんなに手札がいらなのか。どうしてガン伏せ相手に装備カードだらけのモンス単体で突っ込むのか、そんなに早くワンキルしたいのだろうか？こんな感じ。

次にラーイエロー。この寮は一部まじめに強い、大体空回り、こんな感じ。一部強いやつは基本がしっかりできてるやつら。ヒロビとか使わせたらまじめに強そう。他の空回りのやつらはエリートになろうエリートになろうとあらゆる対策をしているせいで大事なときに適したカードが来ないやつら。何を思っただけで天罰をメインから積んでいるのだろうか？特にハンドアドが取れるデッキでもないのに他にもとりあえずメタるかの精神でお前そんなのいつ使うんだよ！というようなカードばかり入っている。ドラゴン族封印の壺とかお前社長とでも戦うつもりか？まあそのカードを社長に使った時点で殺されるだろうがな。社長にとって屈辱のカードだろうし

最後に我らがオシリスレッド。この寮はやけにアニメとかだとそんなに屑屑いわれるほどひどいのか？と思っただけだが、ハッキリ言おう。ひどい。どれだけひどいかというと、フェイズ進行すら儘ならんようなやつがいる。しかし真に驚くべきはやる気のなさである。正直これは屑といわれても仕方ないレベルである。授業は聞いてないわ勉強はしないわそのくせ他者をひがみやがる。お前らよく入試通ったなと思えない。大体こんなやつらが半分以上。少数に上を目指しているやつら更に少数に俗に言う地雷デッキの使い手たち。地雷デッキゆえに勝率が悪いのでオシリスレッドにいるが自分のデッキにこだわりがあるのか特に変えずに居座っている。プレイング

はいいんだからもっとガチデッキを使えばいいと思うが人の勝手なので放置。そして更に少数、というよりただ一人、この寮がいいと行って聞かないのが我らが主人公、ガツチャである。まあまだ実力は認知されて無いから妥当といえれば妥当なんだが。同じく一人に十代と同じがいいと行って聞かない我らがオリヌシ君である。大体内約はこんな感じ

『・・・授業聞いたらどうですか？その無駄な思考は置いておいて』

どうしてこんなことを考えているのかって？それは簡単。授業がつまらないからである。確かにデュエルアカデミアの名のとおり、ここは決闘について習う場所である。だから仕方ないといえれば仕方ないのだが、それでもカードの種類についての説明をされてもつまらない。

「フィールド魔法の説明をお願いしますー」

お？これはそこそ有名な場面じゃないか？いつの間にかこんなに時間もたつてたのな。この後クロノス教諭が十代に馬鹿にされるんだっけか？それでも俺はあれは無いと思うけどな。こんな格差社会の縮図みたいところでその格差の頂点に位置するようやつにいくら舎弟？を馬鹿にされたからといって食って掛かる勇氣は俺には無いな。あとで何されるかわかったもんじゃないし。まあクラスも笑つてたからいいけどな

「でも先生。知識と実践は関係ないですよね？」

お、十代が食って掛かったか。そしてそれはあつてるけど違うだろ。確かに知識で知つても実践で生かせない時はおあるが、知識が無いとそもそも実践で生かすことができないのだから、1と0は

小さいようで超えられない壁があるんだぞ？正直俺は初見で戦うより知識を得てから戦いたいものだ。まあ十代は決闘を楽しみたいと思ってるから初見のほうがいいのかも लेकिन、俺はゴメンこうむるな

「フィールドカードゾーンと呼ばれる特別な場所に、表側表示で1枚のみ存在することができる魔法カードである。

自分と相手の場上にそれぞれ1ヶ所ずつ存在するが、フィールド魔法が表側表示で存在できるのはそのうち1ヶ所のみ。

発動したプレイヤーとその相手の側の双方に何らかの影響を及ぼすのが、フィールド魔法の最大の特徴。

ただし、現在では自分側のみ影響し相手にはその効力が適用されないものが多く存在しているので注意。

既にフィールド魔法が存在する時に新たなフィールド魔法が発動されると、古いフィールド魔法は自動的に破壊される。

これを俗に「フィールド魔法の上書き」と呼び、フィールド魔法は同じフィールド魔法によっても除去される危険性を孕んでいる。

また、この「古いフィールド魔法の自動破壊」は、新しいものを発動したプレイヤーがどちらかによってタイミングが変わる。

フィールド魔法もセットできるが、その場合は魔法&罫カードゾーンではなくフィールドカードゾーンにセットしなければならない。表裏を問わず、既に自分のフィールド魔法が存在する場合、それをルール破壊してから新たなフィールド魔法をセットすることになる。

なお相手のフィールド魔法が発動中またはセット状態の時にこちらがセットを行っても、相手のフィールド魔法は破壊されない。

通常魔法や永続魔法と同じく、フィールド魔法はセットしたターンでも発動することができる。

また発動できるのは自分のメインフェイズの間のみで、スペルスピードが1であるのも同じである。

もういいでしょうかクロノス先生」

「ぐぐぐ、座ってよろしいノ〜ネ」

なんか知らない間にオリヌシ君がドヤ顔でフィールド魔法について語っているんだが、どうしてこうなった

『十代に笑いものにされて他のオシリスレッドに八つ当たりする  
その相手がオリヌシ君  
フルボッコにしてやんよ 今こじ』

おk把握。それにしてもオリヌシ君スゲーな。よくあんなにフィールド魔法について説明口調で語れるのだろうか。俺だつて説明くらはできるがあんなうまく説明できるかといえはできないぞ？正直適当にやってることも多々あるからな。そう考えるともしかしたらためになるような授業もあるかも知れないがそこは知らん。要するに勉強したくないでござる

あの後には特に何もなく授業も進み、今は放課後である。例え授業中に猫が歩き回っても、翔君がラブレターを貰っても何もなかったのである。今俺が何をしているかというところと購買に来ている。理由はただ単にパックを買いに来ただけだ。え？全部持つてるじゃなかった？わかってないな。例え全部持つてもなんとなくパックを買ってしまったくなるものなんだよ。ついでになんかレアカードでも当たれば気分もいいし。というわけで

「おばちゃん！このパック三つください！」

「はいよ。元気がいいねー」

「あ、ただの空元気なのでお気にせず」

「空元気って・・・」

べ、別に友達が少なくなつて暇だからちよつと購買でストレス解消にパックを買おうなんて思ってないぞ！ほんとだぞ！

『ほんとに思つてないですよね』

ばれたか。まあ別に少ないって言うてもいないわけじゃないしな。ただのその場のノリだったし

「というわけでこれ代金ね」



「はい。毎度あり」

というわけで開け「あの〜すみません。このパック売り切れでしようか?」「ごめんねえ〜。たった今売り切れちゃった所なのよ。ほら、あそこの子」・・・個人情報保護法なるものは無いのだろうか?

「……………」

「グツ（パックを開封しようと力を入れる音）」

「……………」

……………」

『困ってますね〜（ニヤニヤ）』

おいこら面白そうな顔して出てくんじゃねーよ

『あ”あ?』

なんでもっ……………ないですっ……………!

『とりあえず目の前でそのパックをダストシュートするのはどうでしよう?』

「どっぴでしようじゃないよ!?!?どんな鬼畜の所業!?!?」

(びくっ!…!)

『仕方ありませんねえ。なら先程の代金の三割り増し程度で売りつけるのどうでしょう?』

「さっきよりはましになったけどどちらにしるおかしいよね!?!しかも目の前に購買があるのに!?!」

(びくびくっ!)

『仕方ありませんねえ。ならば決闘で決めたらどうしょう?』(にやにや)

「それだ!!というわけで決闘だ!」

「失礼しました!」

「へ?」

退場の言葉を言いながらそのこはどこかに走り去って行ってしまったのだが・・・

「なんでだ?」

「あんたさつきから何を一人で大声出してるんだい?」

後ろから購買のおばちゃんが話しかけてきたが

「一人?」

「他に誰がいるんだい?」

他に誰がつてヴェーラーさんが・・・

『ニヤニヤ』

おや？ヴェーラーさんがニヤニヤしているぞ？口に出してまで。  
どこにそんなに面白いことがあるのか。・・・いやもうわかってる  
んだ。俺が認めたくないだけで。もう・・・理解しているんだ

ヴェーラーさんは普通は見えない

俺は居る様に振舞う

ただの電波

不審者やな

「・・・帰るか」

今開封するとカードが塩水で濡れるからな・・・悲しくなんか無  
いやい！

「だから俺も行くって！」

「いやだから寝てろって！」

「いやだから」

「いいから」

今俺の目の前でこの前の焼き増しが行われている。これはもう帰って寝ていいよな？この前めちゃくちや疲れたからだから帰っていいか？

「なんとかしてくれ！」

「お前は昨日俺に負けただろうが！だから止めるな！」

そのとおりだから帰っていいか？寝ていいか？お前ら元気すぎる  
だろ

「あゝもう！俺は翔を助けに行かなくちゃ行けないんだってば！」

「だから俺が案内するって言ってるだろ！」

「それくらい俺も知ってるっつーの！」

ああ、今日は主人公のフラグたての日だったか。そんなどうでもいいことを考えていたのが間違いだっただのか

「だったらこれでいいだろ！」

「どづしてこつなつた」

なぜかガツチャとオリヌシ君とともにボートに乗っている俺。このボートどう見ても二人用だし、つめても三人なんだが・・・帰り

大丈夫か？というかまじで俺がここに居るのが謎だ。十代いわく

俺は一人で行ける！

俺も行くぞ！

よろしい。ならば第三の選択肢だ いまここ

詳しく言うと、別にオリヌシ君を連れて行くのはいいんだが、なんといかいち自分を馬鹿扱いするのが気に食わないらしい。事実じゃんと思ったのは内緒でもない。で、なんか癪だし二人だと雰囲気が悪くなりそうだから緩衝材として俺を巻き込んだと。それでいいのかオリヌシ君と思って聞いてみたらどうやら自分の邪魔をしないなら別にいいらしい。それにしてもこいつなんか行動だけ見ると腐の香りがするんだが・・・

内容：十代に絡まる、お前は俺が居ないとだめなんだ！俺はいつでもお前というぞ！

・・・どちらかといえばヤンデレか？

『オリヌシ×十代・・・オエ』

どうもヴェーラーさんはお気に召さなかったようで。まあ俺も気持ち悪いんだが。え？ただの船酔いだって？酔いが倍増したぞどうしてくれる。そして到着するポート。あちらさんがこちらの人数にちよつとびびってるが俺には関係ないので静観。そうするとどうやら決闘で決着をつけるらしい。原作どうりやな。ここで違うのはオリヌシ君も決闘するらしいこと。相手はですわさんらしい

まあ俺には関係ないから頑張ってくれ

と思っじゅん？

「さあ！早くしなさい！」

「翔のためにも勝ってこいよ！」

「頑張ってくださいっ！」

「ふん！」

ですよねっ



#### 第四話 と思うじゃん？（後書き）

読んでくださりありがとうございます

どうも作者です

どうして今回投稿が早いのか

ノリです

前回のストラクといい今回のGSといい、次回のDTといい年末だからでしょうか？コナミのデレがやばいです。そして俺の財布が拗ねたのかツンがやばいです。それはもう中身がレシートで分厚くなるくらいやばいです

そして内容について。今回決闘はありません。そしてヒロイン候補の影が出てきました。そして主人公が変人のレットルを張られました。以上

最後に読んでくださり誠にありがとうございます。次回も不定期更新ですが読んでくださるとありがたいです

P.S 活動報告とかしたほうがいいんですかね？意見と感想が欲しいと催促してみます

第五話 真と思っじゃん(前書き)

気分が乗ったので投稿

## 第五話 真と思うじゃん

言ってみれば・・・そう、俺の油断、慢心、確信の無い安心感。これら全てのが重なったのだろう。今日が大丈夫だったのだから明日も大丈夫。なんて甘い考え。だけどそれも仕方ないと思わなにかい？俺はただの一学生。少しばかり出自？がおかしいが、それだって黙っていればわからない。それなのにこんな闘争に巻き込まれるなんて

世界は矛盾を嫌う。そうやって言われている。だからなのだろうか。今まで歩んできた自分<sup>たにん</sup>。そしてこれから歩んでいく他人<sup>じがん</sup>。これらが矛盾しているから、自分であり、他人である俺だから、こんなことになったのだろうか

・・・多分誰にもわからないだろう。なにせ本人すらわかっていないのだから。だけど、自分だつてなりたくてなつたわけじゃないんだ。自分で選んだわけじゃないんだ

・・・それだけはわかって欲しい。これからも他人<sup>じがん</sup>の体で生きていくために。

俺はこれからも巻き込まれていくんだろう・・・

『何を厨二臭いこと考えてるんですか?』

「とりあえず今まで起こったあらすじをできるだけぼかしてプロロ  
ーグっぽく表してみた」

といわけでごんばんわ。深夜のテンションでおかしくなった俺で  
す。おそらくさっきのことと明日の昼ごろにはぐわあああああ  
ああってなっていることでしょう。わかっていてもやっってしまうこ  
とってありますよね?

「さあ!早くしなさい!」

「頑張れよ〜!」

「がんばってっす!」

「・・・」

どうしてこうなったかというと、十代たちはアニメどおりに決闘<sup>デュエル</sup>  
していたんだ。クロノス教諭がなぜか現実化した電撃によってリア  
ルダメージを負う瞬間も見た。もういいじゃんと思っただが、やはり  
我らがオリヌシ君。自分もデュエル!と言い出した。そこで登場し

たのが浜口ももえ。どうも明日香が負けたのが気に入らないのかこちらを挑発。女子っただけでオベリスクブルーに入ったやつが生言っつてんじゃねえ。よろしいならば決闘だ。という流れでデュエルしていた

まあここまでではいいでしょう。オリヌシ君が居るんだ。むしろ何もなかったほうが怖い。もちろんさっさとシンクロでワンキルしていた。しかし、ここからが問題だった。残ったもう一人の女子がいちやもんを付けてきたのだ。何でも、こちらが使えない召喚方法を使うのは卑怯だと。まあそりゃそうだが、それは仕方ないだろう。そんなこと言ったらほぼ初見でチートの塊であるオレイカルコスとかを倒した王様とかがかわいそうだろう。・・・まあ王様もチート使っつたといえれば使っつたが、それは置いておこう。実際最初はそんなもの使わずに倒しかけたんだ。十分だろう

しかし納得がいかないのか、自分もデュエルするとか言い出した。どうやら他二人が負けてオベリスクブルーのプライドが傷ついたらしい。オシリスレッドなんかに負けるもんですか。イカサマしたんでしよう！と言い出す始末。知らんがなとしか言いようが無い。そして話は戻るがデュエル相手を選ぶことになったんだが、そこで俺が選ばれてしまったのだ。十代はデュエルしたがっつたが、もう一回デュエルしたから却下。ついでに自分たちだけ情報を持つているのは不公平だと明日香さんが言っつた。そんなんだからGXで一番男前だと言われるんだと思っつたが睨まれたので黙っつておく。以下同じ理由でオリヌシ君も却下。となると除き疑惑が懸けられる翔君の出番かと思っつたのだが、お相手様が不平を述べたのだ。曰く、覗きをするような汚らしいやつとデュエルなんかできるか！とのことらしい。気持ちはわからなくも無いが名誉挽回のチャンスぐらいくれてやれよ。しかも本人なのに蚊帳の外とか。ついでに本人もほっつとしてんじゃねーぞぶおらあ！

といわけで消去法で俺らしい。嫌でござるー！働きたくないでござる！」さっさとしろ！」はい……

side out

side???)

「それにしても大丈夫なのでしょうか……」

今私は明日香さん達を探しています。理由は今日の入浴時間。どうやら覗きがあつたようです。幸いというかその時は明日香さん達しか入っていないかつたようで、他の方々は覗かれなかつた様ですが……いえ！幸いとか言つてはいけませんね。覗かれた明日香さん達は傷ついたはずですから

え？どうして知っているかですか？女子の情報網は恐ろしいのです。というのは嘘で、ちょうど入浴に向かおうとしたときにホールで声が聞こえたので、何事かといひ盗み聞いてしまいました。なのでこのことは私以外知りません。それにしても今日の明日香さん達は厄日なのでしょうか？誰かに覗かれ、私に盗み聞きされる。運が悪いですね。他人事ながら

そして私はその内容を聞き驚きました。どうやら犯人はオシリスレッドの方のようです。そして明日香さん達はどうやら覗き魔を引き渡すべく、誰かを呼び出すようです。……さっさと引き渡しては駄目なんでしょうかね？駄目なんでしょうかね。明日香さん達にも

理由があるのでしょし、当事者ではない私に言えることはありませんから。そしてどうやら今から向かうようですが、大丈夫なんでしょうか。今はもう夜ですし、辺りは真っ暗です。引き渡すにしても明日でいいような気がします。話がそれました。こんな夜中に、しかも覗きをするような人の知り合いなんてその人も碌な人ではないはずです！そんな人に会いに行くだなんて。明日香さん・・・男らしすぎます！・・・ゴホンっ！それはおいておいて、いくら明日香さんが男らしいからといって、男性に力勝負で勝てるわけがありません。もし襲われてもしたら大変です！・・・怖いですが私が後ろから着いて行って

いざとなったら先生を呼びに行きましょう

と思っていたのが先程までの話です。気づいたときには時既に遅く今は見失ってしまった明日香さん達を探しています。いけませんね。つついっ集中しすぎたようです。真っ暗闇の中、一人というのは怖いものです。早く合流したいですね。後ろから着いて行くのはなかったのか？怖いものには勝てません

「さっさとしろ！」

どうやらあちらのようです。それにしても何をイライラしているのでしょうか。と考えている間に到着しました・・・なぜ池のど真ん中まで行っているのでしょうか？ってあの人はあの時の！

side out

目の前で枕田うんちゃんさんがなぜかカッカしてますね

『早く始めてあげたらどうですか？』

「できればこのままにしておきたい」

君子危うきに近寄らずだよ

「準備はいいわね！答えは聞いてないわ！私のターン！」

ちよ、おま

「私は手札からハーピー・レディを攻撃表示で召喚するわ！」

ハーピー・レディ

通常モンスター

星4 / 風属性 / 鳥獣族 / 攻1300 / 守1400

人に羽のはえたけもの。美しく華麗に舞い、鋭く攻撃する。

「更に私は手札から魔法カード万華鏡・華麗なる分身・を発動！」

万華鏡・華麗なる分身・

通常魔法

「ハーピー・レディ」が表側表示でフィールド上に1体以上存在する時に発動できる。

手札またはデッキから「ハーピー・レディ」か

「ハーピー・レディ三姉妹」を1体特殊召喚する。

「このカードはフィールド上にハーピー・レディが表側表示でフィールド上に1体以上存在する時手札またはデッキからハーピー・レディかハーピー・レディ三姉妹を1体特殊召喚できる。私は手札から、現れなさい！ハーピー・レディ三姉妹を特殊召喚！」



ハーピー・レディ三姉妹

効果モンスター

星6 / 風属性 / 鳥獣族 / 攻1950 / 守2100

このカードは通常召喚できない。

「万華鏡・華麗なる分身」の効果で特殊召喚する。

ハーピー・レディとはまたなかなか使い辛いカードを使うな。鳥獣か？はたまたファンデツキでハーピーか？どちらにしてもGBAが怖いな

「ターンエンドよ！」

「じゃあ俺のターンな。ドロー」

何にも伏せないとは・・・事故か？ゴーズならそもそも出さないしな・・・多分。まあリアルでもなくは無いか

「俺はスクラップ・ビーストを攻撃表示で召喚！」

スクラップ・ビースト

チューナー（効果モンスター）

星4 / 地属性 / 獣族 / 攻1600 / 守1300

フィールド上に表側守備表示で存在する

このカードが攻撃対象に選択された場合、

バトルフェイズ終了時にこのカードを破壊する。

このカードが「スクラップ」と名のついた

カードの効果によって破壊され墓地へ送られた場合、

「スクラップ・ビースト」以外の自分の墓地に存在する

「スクラップ」と名のついたモンスター1体を選択して手札に加

える事ができる。

「バトル！スクラップ・ビーストでハーピー・レディに攻撃！」

スクラップ・ビーストがハーピー・レディに突撃していく。その突撃を避けようとするが、避けきれず鉄の爪によって切り裂かれた

「ぐうっ！」

「俺はバツクに三枚カードをセットしてターンエンド！」

とりあえず何もなかったな。となると事故か。それとも墓地にためたかったのか。まあその内わかるわな

「くっ……一発当てたからって調子に乗るんじゃないわよ！私のターン！ドロー！」

乗った覚えないんだが？

「さっきのお返しよ！私はハーピー・レディ三姉妹でスクラップ・ビーストを攻撃！」

「じゃあ俺は逃げる。速攻魔法発動。スクラップ・スコール！」

スクラップ・スコール

速攻魔法

自分フィールド上に表側表示で存在する「スクラップ」と名のついた

いた  
モンスター1体を選択して発動する。

自分のデッキから「スクラップ」と名のついたモンスター1体を

墓地へ送り、カードを1枚ドロウする。  
その後、選択したモンスターを破壊する。

「その効果によってデッキからスクラップと名のつくモンスターを  
一体墓地に送り、その後ワンドロー！、そして選択したモンスター  
を破壊！」

「な、逃げるんじゃないわよ！」

さつきも言ったが君子危うきに（以下略）だよ。ついでに破壊さ  
れたビーストの効果も発動してるんだけど、この世界はどうもわざ  
わざ宣言しなくても勝手にディスクがやってくれらるみたいだし。相  
手も聞いてこないし別にいつか。というわけで回収

「くっ、だったら直接あなたに攻撃するまでよ！」

おおふ。まさか気づくとは。頭に血が上ってるように見えたから  
儲けたかと思ってたのになかなかどうしてよく見てるじゃないの。  
まあどうやってでも俺を殴りたいだけのようにも見えるが

「ハーピー・レディ三姉妹であのいけ好かないオシリスレッドの屑  
に攻撃よ！」

まあスクラップも屑鉄やしな

「ぐふう！ってちよっ！なんか今三回くらい攻撃しなかった！？」

「はあ？何言ってるの？三姉妹なんだから当たり前でしょう？」

いやそうだけど、なんか釈然としない。ライフに影響は無いから

いいけど

「なにやってんすか！さっさと倒してくださいっす！」

「あんたねえ〜！！」

「ひい〜っ！」

あいつほんとに反省してんのか？偶然とは言え近くに居たのは事実なんだから反省位しとけよ

「ふん！どう？オベリスクブルーの実力は。わかったらさっさとサレンダーしなさい」

どうも一発やり返して気が大きくなってているらしい。確かにこの世界ではライフを半分近く削られたらヤバイという認識があるのだろう。それは否定しない

だけど・・・

「サレンダーはしない」

「はあ？」

「だからサレンダーはしないって言ったんだ」

そう。サレンダーはしない。サレンダーだけはしちやいけない。いくら絶望的な差があったって、どれだけ惨めになったって、いくらやる気がなくなっても

「サレンダーは、絶対にしない！」

「なっ！」

俺が急に大声を出して驚いたのだろう。枕田がのけぞっている。  
・ 危ないぞ？他にも回りに居たやつら全員が驚いて口を開けて呆けてしまっている。そんなにおかしいだろうか？いくらデュエルが決闘の名を冠そうとも、遊びなのだ。だからこそ、みんなが真剣に夢中になってやるのだ。楽しく、負けたくないからこそ、全力を尽くすのだ。だから、サレンダーなんて、相手に対しても自分に対しても楽しくない真似は絶対にしない。この世界では命をかけるデュエルもあるかもしれない。だけど、それならなおさら、自分の行いを、してきたことを、間違っていると認めるようなことは絶対にしない。終わった後は、お互いに楽しかったと思えるようにならなきゃいけない。楽しくなくなったら、続ける意味がなくなってしまうのだから。止めたくなくなってしまふのだから。嫌いになっってしまうのだからサレンダーは絶対にしない。これが俺の持論だから

「それで？お前のターンは終了か？」

「わ、私はカードを二枚伏せてターン終了よ」

「じゃあ俺のターンだ。ドロー！」

それに、たかだかライフが半分近くになったからといって負けたわけじゃない。ライフがゼロにならない限り、負けじゃないんだから

「俺は手札から、スクラップ・キマイラを攻撃表示で召喚！そして召喚に成功したとき、スクラップ・キマイラの効果発動！」

スクラップ・キマイラ

効果モンスター

星4 / 地属性 / 獣族 / 攻1700 / 守 500

このカードが召喚に成功した時、

自分の墓地に存在する「スクラップ」と名のついた  
チューナー1体を選択して特殊召喚する事ができる。

このカードをシンクロ素材とする場合、

「スクラップ」と名のついたモンスターのシンクロ召喚にしか使用  
できず、

他のシンクロ素材モンスターは全て

「スクラップ」と名のついたモンスターでなければならない。

「その効果により墓地よりスクラップ・ビーストを攻撃表示で特殊  
召喚！蘇れ！スクラップ・ビースト！」

再び現れる屑鉄の獣。その身はなんどでも蘇る。なぜならその身  
を構成するゴミはそこらにたくさんあるのだから

「だ、だからどうしたって言うのよ！攻撃力で劣るモンスターをい  
くら並べたって無駄よ！」

確かにそのとおり。だったら勝てるようにするだけだ

「バトル！スクラップキマイラでハーピー・レディ三姉妹に攻撃！  
スクラップ・ファング！」

「血迷ったの！？攻撃力の低いモンスターで攻撃するなんて！？  
・いいわ返り討ちにしなさい！」

スクラップ・キマイラが自身の牙でもって相手を噛み千切ろうと

飛び掛る。しかし、ハーピー・レディ三姉妹は既に迎撃の態勢を取り、その突撃を止めてしまう

「そのまま引き倒しなさい！」

その言葉を受け引き倒そうとするが

「それはどうかな？」

「なっ!？」

突如としてスクラップ・キマイラがハーピー・レディ三姉妹を押し返し始めた

「な、なんで!？」

「ダメージステップ時!罨カード発動!幻獣の角!」

幻獣の角

通常罨

発動後このカードは攻撃力800ポイントアップの装備カードとなり、

自分フィールド上に存在する獣族・獣戦士族モンスター1体に装備する。

装備モンスターが戦闘によって相手モンスターを破壊し

墓地へ送った時、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

「その効果によって、スクラップ・キマイラにこのカードは装備され、キマイラの攻撃力は800ポイントアップ!よってスクラップ・キマイラの攻撃力は2500!」

「何ですって!?!」

「そのまま押し飛ばせ!キマイラ!」

「くっ!装備カードだったら破壊するまでよ!速攻魔法発動!サイクロン!」

サイクロン

速攻魔法

フィールド上に存在する魔法・罠カード1枚を選択して破壊する。

「邪魔なその装備カードを破壊すればこっちのほうが攻撃力は上な  
んだから!」

「ところがどっこい。そうは行かないんだな」

「何を言っているの?」

そう、これが遊戯王がめんどくさいと思われる一因。コンマイ語  
といわれる所以

「・・・ちよつと待って。どうして発動しないの!?!」

そう、遊戯王でわかりにくいといわれる要素その一それh「なに  
をやっているのジュンコ!今はダメージステップ中よ!」・・・

「ダメージステップってなんすか?」

「さあ?」



「そんなことも知らないの？ダメージステップっていうのは基本的にモンスターの攻撃力・守備力を増減させる効果を持つカードと、カウンター罠以外は発動することができない時間帯のことよ」

「ふーん。つまりどういうことだ？」

「・・・つまり、彼が使用した攻撃力を上げるカードが使えて、ジュンコの使おうとしたサイクロンのような、カードは使えないということよ」

「それって自分のカードを無効にされないってことっすか!？」

「はぁ・・・そういうわけではないわよ。さっきも言ったみたいにカウンター罠は使えるわけだし、自分も攻撃力を増減させるカードを使えないだけですしね」

「でもそうそう入れてるわけじゃないっす。それってやっぱりズルくないっすか？」

「そう思いたい気持ちもわからないでもないけど、彼がさっき使ったカードにしても、サイクロンで壊そうと思えばいつでも壊せたわ。それを壊さなかったのはジュンコの責任だし、彼はちゃんとダメージステップ時に発動と言ったわ。有無を言わず無理矢理感はあるけど、異議を唱えなかったのはジュンコの責任だわ」

「そんなんありなんすか？」

「ギリギリセーフといったところね。仮に気づいてサイクロンを発動して壊せたかというところ半分の確立だし、そもそも考慮してなかっ

たでしょうしね」

説明ありがとう！そう。これがコンマイの魔法の言葉「ダメージステップ入っていいですか？」である。この言葉を使うと相手は苦い顔をするか、バツクを壊しにくるぞ！類義語に「ボチヤミサンタイ」と「ダメージ計算入っていいですか^^」がある。前者は相手のやる気をなくし、後者は相手に絶望を与える魔法の言葉である

「というわけで続行！そのまま戦闘終了！そして幻獣の角の効果によってワンドロー！ついでにビーストも攻撃じゃい！」

「きゃあああああああああ！」

ビーストの攻撃によって大きくライフを削ったけど・・・こいつらどこに立ってんだ？浮いてるのか？下を覗こうとしたらうなられたので止めておこう

「ふざけんじやないわよ！あんたみたいなオシリスレッドに負けてたまるもんですか！」

そんなこといわれても知らないし

「じゃあメイン2でカードを二枚セットターンエンド」

「私のターン！ドロー！まずはその邪魔なカードを破壊よ！速攻魔法サイクロン発動！」

サイクロンの効果で破壊される幻獣の角。まあいいでしょう

「更に私は手札から強欲な壺を発動！その効果によりカードを二枚

ドローする！」

強欲な壺

通常魔法

自分のデッキからカードを2枚ドローする。

単純に一アドのカード。別名困った時の壺。現環境で復帰したらどのデッキにも入るであろうカード。ぶっちゃけ強欲で謙虚な壺の枠に入るでしょう

「許さないけどね？」

「え？」

「カウンター罫発動。神の宣告」

神の宣告

カウンター罫

ライフポイントを半分払って発動する。

魔法・罫カードの発動、モンスターの召喚・反転召喚・特殊召喚のどれか1つを無効にし破壊する。

そんなチートカード通すわけ無いでしょ

「だ、だったら魔法カード天使を施しを発動！」

天使の施し

通常魔法

自分のデッキからカードを3枚ドローし、その後手札を2枚選択して捨てる。

「私は三枚ドロ―！その後二枚を墓地に捨てるわ！」

・・・やっぱりこんなの絶対おかしいよ！

『てんぱっているいろ混ざってますね』

それにどうやらお望みのカードが引けたご様子で

「私は手札を一枚捨てて、永続罫カードヒステリック・パーティーを発動！」

ヒステリック・パーティー

永続罫

手札を1枚捨てる。

自分の墓地に存在する「ハーピー・レディ」を可能な限り特殊召喚する。

このカードがフィールド上から離れた時、

このカードの効果で特殊召喚したモンスターを全て破壊する。

「これにより、私の墓地に眠るハーピー・レディたちを特殊召喚！現れなさい！ハーピー・レディたち！」

「「「「はあ！」「」」」」

呼びかけにこたえて出てきたのは四対の翼を持つ翼人たち。獲物を狩ろうと目をぎらつかせている

なるほど。いいカードを引いたんじゃないくて、いいカードを落とせたのか。まあ

「関係ないけど。罨カード発動！激流葬！」

激流葬

通常罨

モンスターが召喚・反転召喚・特殊召喚された時に発動する事ができる。

フィールド上に存在するモンスターを全て破壊する。

そして現れるのは全てを飲み込む津波。それによって今にも飛び掛らんとしていた翼人もろとも俺のスクラップたちを飲み込んでいった

「残念だったね」

本当に。後ちよっとだったね

「ジュンコ・・・」

「やったっす！僕らの勝ちっす！」

そうこれで

「俺の勝ちだな」

相手のハンドは一枚のみ。場は何も無い。普通ならこれでゲームセットである。そう、普通なら

「でもさ。あいつ、まだ目が死んじやいないぜ？」

「え？」

十代がしゃねにならないフラグを立てだした

「そう。あなたなら、この罠にも対応してくると思っただわ。そしていつもの私ならここで負けてたでしょうね。だけど、あたしにだってプライドがあるのよ。そう、オシリスレッドなんかは……負けてたまるもんですかあああ！」

「うおう！怖いね。だけど、ここからどうするって言うんだい？」

そう。この状況は最早詰んでいる。ここから逆転できるというならしてみてもらいたい

「こうするのよ！私は墓地のハーピー・レディを除外し、手札からシルフィードを特殊召喚！」

シルフィード

効果モンスター

星4 / 風属性 / 天使族 / 攻1700 / 守 700

このカードは通常召喚できない。

自分の墓地の風属性モンスター1体をゲームから除外して特殊召喚する。

このカードが戦闘によって破壊され墓地に送られた時、相手はランダムに手札を1枚捨てる。

「まじか……」

「そしてあなたのライフは残り950。これでお終いよ！シルフィ

「ド！ダイレクトアタック！」

「と思うじゃん？」

「え」

そう。よく頑張ったと思う。正直なめてたところもあった。だからもう負けてもいいんだろう。ここで負ければ一皮剥けた子が気持ちよく終って、新しい学生生活を満喫できるだろう。でも

「なんか癩だわ。 畏発動、次元幽閉」

次元幽閉

通常畏

相手モンスターの攻撃宣言時に発動できる。

その攻撃モンスター1体をゲームから除外する。

「この効果によってシルフィードは除外される」

「そんな・・・」

まあこれが現実なのよね

「何も無いなら俺のターンでいいか？」

「・・・ええ。来なさい！」

その意気や良しっ感じだね

「なら遠慮なく。俺は手札から魔法カード、スクラップ・エリアを

発動！」

スクラップ・エリア

通常魔法

自分のデッキから「スクラップ」と名のついたチューナー1体を手札に加える。

「その効果でデッキからスクラップ・ビーストを持ってくるよ。そのまま召喚でダイレクトアタック！スクラップ・ファンゲ！！」

屑鉄の牙が相手に届くと同時にライフが尽きたことを知らせるブザーの音が鳴った



「これで勝ったと思わないことね！！次は絶対勝つんだから！！」

そんな素敵な捨て台詞を頂き、翔を返して貰えました

そんなこんなで無事帰ってくる事ができました。といってもやっぱり船が小さすぎてもう一艘借りてきたが

side out

side???)

・・・すごいです。今私の目の前ではとても高度なデュエルが行われています。対戦者は枕田さんと昼間の変態さん。私では考えられないような戦いです。正直出て行くタイミングを失ってしまいました。それにしても変態さんはただの変態さんではなくすごい変態さんだったのですね！え？ちがう？細かいことはいいんです！こんなにすごいデュエルができる人が嫌な人なわけありません！明日にでも話しかけてみようと思います！

ついでに今日の昼間のパックについても聞いておきます



## 第五話 真と思っじゃん（後書き）

読んでくださりありがとうございます

これからも不定期更新ですが頑張っていきます  
感想待ってます

第六話 これが俺の切り札だ！！（嘘です）（前書き）

年越し前に投稿したかった…

第六話　これが俺の切り札だ！！（嘘です）

「サレンダーします」

『前回までの流れっ！?』

「急にどうした？前回とか」

『いえ。急に釈然としない気持ちになりました』

「おいおいまるで俺がとっても良い事を言ったのに早速破ったみたいな言い方じゃないか」

『違うんですか?』

「言った言葉には責任が問われるけど言っていない言葉の責任の所在はハッキリして無いからな。つまり俺は無実だ」

『・・・やっぱり釈然としません』

「気のせいね」

ついでにそのまま忘れておいて欲しい。この前のはあれだよ。一時の気の迷いだよ。それと深夜だったからテンションがあがってたんだよ。つい主人公みたいなこと言いたかったんだよ。今では黒歴史だよ。ほらみるよ。今だって思い出して語尾が「よ」にしかなくて無いよ。それほどテンパツてるんだよ。

「まあ実際さっきのは仕方ないさ。普通にまた流星龍にゴオレンダア！！されたし」

『だから私を使えとあれほど』

「いやいなかったじゃん」

ヴェーラーさんはさっきのデュエル中ずっと私を使え私を使えとうるさかったがこないお前が悪いとしか言いようが無い。どうしてデュエルしていたかというただの実技の授業だったりする。もうすぐ月一テストだから最近の実技が増えていたりする。おかげでオリヌシ君が毎回クリアマインドしている。そんなに簡単に明鏡止水の境地にたどり着いて大丈夫なのだろうか。いつかそのまま悟りでも開いてしまえばいいのに。そして餌食になるのはなぜか毎回俺である。あいつ俺の邪魔すんなどか言ってなかったっけ？関わりたくないんだが

『それにしてもここ最近皆さん慌しいですね。そんなに自分は忙しいアピールをして構ってもらいたいんでしょうかね？』

「いや、そんな穿った見方をするのはヴェーラーさんだけだから」

みんな次のテストで良い点をとろうと必死に勉強している。特に

ライイエローのやつらが一番まじめに取り組んでいたりする。ブル  
ーとレッド？想像に任せる。強ち間違った想像にはならないでしょう

『そんなに全員が忙しそうにしている中、我がダメマスターは勉強  
しなくてもいいんですか？』

「うん。さらつと暴言を吐いたけど仮にもマスターだからね？俺」

『今なら運命を全力で憎めます』

「こんなしょうも無いやり取りだけで運命を憎めるとかヴェーラー  
さんの憎しみはどれだけしょぼいのかと」

『訂正します。今ならマスターを殺せそうです』

「なぜ物騒な方へっ！？そして訂正になってないよ！むしろ新しい  
話だよ！」

『せやな』

「丁寧口調はいずこへ！？」

『そんなことよりまじめに勉強しろよ』

「話を振った本人が言うんですかそうですか。そして命令口調なの  
な」

『せやな』

「あんためんどくさくなってるだろ。このやり取り」

『せやな』

ヴェーラーさんがだるそうな顔をしている。そしてこっちを向いてまるでおれが悪いみたいなのを向けてくるのだが俺って一分たりとも悪いことしてないよな？

『で、結局しないんですか？』

「面倒」

『ですよー』

大体高校の授業程度で勉強するほうが間違っているのだ。高校とというのはなんやかんや勉強しなくてもギリギリ付いていける程度の問題しか出ないわけだし。・・・まあ前世？のときの経験談だからこの世界で通用するかは知らないが、アニメで特に勉強してなかった翔が通ってたんだし大丈夫っしょ

『ところでまたパック買うんですか？』

「最早浪費癖になってるな」

最近することがなくて暇になるとついパックを買ってしまう。全部持つてるのになんとなくお金があると思うと買ってしまふのである。ついこの間も今度入荷する新パックを入荷分だけ予約してしまった。普通は予約などはできないのだがほとんど毎日通っている所為か、どうも顔なじみになってしまいいろいろ融通が利くようになってしまったのである。というわけで予約してしまった。一応オリカなども入っているから全く無駄というわけではないな



「というわけでこのパックくださいな」

「はいよ」

さてさて今回は何が当たるか。「あの〜すみません。このパック売り切れでしょうか?」「ごめんねえ〜。たつた今売り切れちゃった所なのよ。ほら、あそこの子」「おや?前も聞いたことがあるようなやり取りが今まさに行われている気がしたのだが?ふむ。つまりあれか

「俺とデュエルだ!」

「望むところです!」

・・・あれ?

『乗ってきた・・・だと・・・!?!?』

「乗ってきた・・・だと・・・!?!?」

ヴェーラーさんとともに驚愕。まさか乗ってくるとは。この前みた限りではそんなキャラじゃないと思っていたんだが。

「デュエルしないんですか?」

「デュエルするんですか?」

思わず聞き返した俺は悪くない

「誘ったのはそつちですよ？」

「それはそうなんだが・・・」

「なんだ？この娘。前回とまるで違う気がするんだが？まさか別人か？」

「別人ではありませんよ？」

「もうこの際俺の思考が読まれるのは置いておくとして、まじめな話、君つてこの前どこかに走り去っていった子だよな？この前は走り去ったのに今回は乗ってきたから驚いてるんだ」

「ああ。あの時の事ですか。あの時はあなたのことを知らなかったのてただの変人さんだと思ってましたので逃げましたが、あの後あなたの話を周りの人に聞いたり実際に見てみて気づきました」

それはあれか。俺がいつの間にかフラグを建てていて、「あなたはすごい変人さんなんですな！」その発想はなかったわ

「それにあなたに対して悪い噂は聞かないので大丈夫だと思ったので乗ってみました」

「いやそれにしてもいきなりすぎるでしょ。しかもすごい変人さんつて・・・俺が度しがたい変人つて意味じゃないよね？そうだよな？」

「？なにを言ってるんですか？あなたはすごい変人さんですよ？」

「・・・もついいよ。ついでに公衆の面前で俺のことを変人変人言

わないでくれると助かるんだが」

『マスターを諦めさせるとはなかなかやりますね』

お前の対抗意識はいらん。

「まあいいとして、俺って別に授業とかでも目立った成績とか残してないよな？それなのにすごいって・・・やっぱりとても変人的な意味？」

『諦めてないじゃないですか』

男は女々しい生き物なのです

「いえ、実はこの前の女子寮の湖でのデュエルを偶然見てしまいまして」

「まじか」

見られてるとは思ってなかったわ。でも観客ってクロノスだけだったよな？それなのに見てたってことはオリヌシ君か俺の行動が少しづつ原作に影響しだったか？

「はい。なのであなたがすごいのは知っています。そんなあなたとデュエルを試してみたかったので調度よかったです!」

そういうことでしたか。

「まあだったら普通にデュエルしますか」

「はい！……ついでに私が勝ったらこの前のパックは貰います（ぼそっ）」

「ぼそっと言ったつもりかもだけど聞こえてるからね？」

「このこんなキャラなのな」

「え〜。いいじゃないですか!」

「……まあいつか。だったら俺が勝ったら？」

「ごめんなさい」

「何も言っていないのに断られた!？」

それって俺にメリット無くね？

「まあいつか。じゃあ俺が勝ったら言うことを一つ聞いて貰おうか?」

「あ、じゃあデュエルはしません」

「どんだけ嫌なんだよ!」

驚きの連続である。さっきのパックのことといいこの子かなり強かやな

「はあ……もういいよ」

「それでは」

「「デュエル！」」

「それよりも場所変えようぜ？」

「はい」

『かつこ付きませんね』

だまらっしやい

それでは改めて

「デュエル！」

場所は校舎から出てすぐの森の中の広場である。誰もいないしちようどよかった

「先攻は私です。私のターン。ドロー！私は手札から魔法カード増援を発動！その効果によってデッキからレベル4以下の戦士族モンスターを手札に加えます。私は異次元の女戦士を選択し加え、そのまま異次元の女戦士を攻撃表示で召喚です！」

増援

通常魔法

自分のデッキからレベル4以下の戦士族モンスター1体を手札に加える。

異次元の女戦士

効果モンスター

星4 / 光属性 / 戦士族 / 攻1500 / 守1600

このカードが相手モンスターと戦闘を行った時、

そのモンスターとこのカードをゲームから除外する事ができる。

次元使い・・・だと・・・！？相性が悪いにもほどがあるだろ。

「さらに私は手札から魔法カードおろかな埋葬を発動します。効果でデッキからモンスターカードを一枚墓地に送ります。私はゼータ・レティキュラントを墓地に送ります」

おろかな埋葬

通常魔法

自分のデッキからモンスター1体を選択して墓地へ送る。

それなんてガチプレイング？お前さんほんとに原作キャラかよ

「更に私はカードを二枚セットです。ターンエンドです」

・・・しっかりと考えられたプレイングですね。どう考えてもバツクが除外系で除外される未来しか見えない。ていうか真面目にやらないと負けるんじゃない？これ。

「じゃあ俺のターン！ドロー！俺は手札からライトロード・マジシヤン ライラを攻撃表示で召喚！」

ライトロード・マジシヤン ライラ

効果モンスター

星4 / 光属性 / 魔法使い族 / 攻1700 / 守 200

自分のメインフェイズ時に発動できる。

自分フィールド上に表側攻撃表示で存在するこのカードを表側守備表示に変更し、

相手フィールド上の魔法・罫カード1枚を選択して破壊する。

この効果を発動した場合、次の自分のターン終了時まで

このカードは表示形式を変更できない。

このカードが自分フィールド上に表側表示で存在する限り、

自分のエンドフェイズ毎に、自分のデッキの上からカードを3枚墓地へ送る。

「この瞬間、罫カード発動！奈落の落とし穴！この効果であたのライトロード・マジシヤン ライラを破壊してゲームから除外します！」

## 奈落の落とし穴

### 通常罠

相手が攻撃力1500以上のモンスターを  
召喚・反転召喚・特殊召喚した時に発動する事ができる。  
その攻撃力1500以上のモンスターを破壊しゲームから除外す  
る。

やっぱりあったか。割れば御の字、奈落にかかってくれてもこ  
れから少しは奈落到怯えずに済むようになるからどっちでもよかつ  
たんだが、まあバツクも割れば割りたかつただけだね

「さらに墓地に存在するゼータ・レティキュラントの効果発動！」

え

「相手フィールド上のモンスターが除外されたときにこのカードが  
墓地に存在する場合、私のフィールド上にイーバトクンを一体特  
殊召喚します！」

ゼータ・レティキュラント

効果モンスター

星7 / 闇属性 / 天使族 / 攻2400 / 守2100

このカードが墓地に存在する時、

相手フィールド上に存在するモンスターがゲームから除外される  
度に、

自分フィールド上に「イーバトクン」

(悪魔族・闇属性・星2・攻/守500)を1体特殊召喚する。

自分フィールド上に存在する「イーバトクン」1体を生け贄に  
捧げる事で、



手札からこのカードを特殊召喚することができる。

おいおいおいおいまじか！？この時代だから適当なモンスだと思  
って確認せずにスルーしてたらえらいモンスが落ちてたな畜生め！  
やっぱり墓地確は大切なんだなと改めて思ったわ。もう遅いけどな！

「まだあなたのターンですよ？」

「だったら俺はカードを二枚・・・いや、三枚セットしてターンエ  
ンドだ」

大嵐怖いとかいってられる状況じゃないしな

「なら、私のターン、ドロー！私はイーバトクンを生贄に手札か  
らゼータ・レティキュラントを攻撃表示で召喚！」

ちょー！このモンスがいない状況で出してくるとか鬼か！

「さらに私は、リバーズカードオープンです！永続罫リビングゲッ  
ドの呼び声！効果によって墓地からゼータ・レティキュラントを攻  
撃表示で特殊召喚します。戻ってきて！ゼータ・レティキュラント」

リビングゲッドの呼び声

永続罫

自分の墓地のモンスター1体を選択し、表側攻撃表示で特殊召喚  
する。

このカードがフィールド上から離れた時、そのモンスターを破壊  
する。

そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

あれ？これって4000超えてね？

「そして私はイーバトクンを攻撃表示にし・・・バトルです！全員で相手プレイヤーにダイレクトアタック！」

「させるか！速攻魔法月の書発動！」

月の書

速攻魔法

表側表示でフィールド上に存在するモンスター1体を裏側守備表示にする。

「効果によってゼータ・レティキュラントを裏側守備表示に変更！」

「でも他の2体の攻撃は続行です！」

「ぐううう！？」

このダメージ量は洒落にならん！立体映像のはずなのになぜか衝撃も来るし。KC社仕事しすぎだろ！

「惜しかったです・・・私はカードを一枚伏せてターン終了です」

甘く見ていた。そういつたら手加減していたようだが手加減していた気はないし、今の手札でできる最善を尽くしていたが、それでもどうともなると思っていた。だが実際は明らかに相手は俺の予想の上をいき、既に俺のライフは風前の灯だ。シンクロ、エクシーズが使えないとはいえ、この時代でまさかここまで苦戦、追い詰められるとは思っても見なかった。

「こんなに強いとは思ってもみなかったよ」

いやまじで

「えへへ。ありがとございます」

ニターンキルとか怖すぎる。しかもワンショットかよ。

「でもそうそう負けてやることなんかできないんだな」

「当然です。このまま終わってもらっても困ります。まだすごいところを見せてもらっていません」

そんなにすごかった覚えがなくて困るんだが。

「ハードルがあがったところで、俺のターン！ドロー！」

実際問題かなり厳しいんだがなあ。相手の場に打点24のゼータ・レティキュラント×2と相性の悪い女戦士。こつからゲームエンドまで持っていこうと思うとかなり大変なんだよな

「・・・俺はスクラップ・ビーストを召喚！」

スクラップ・ビースト

チューナー（効果モンスター）

星4/地属性/獣族/攻1600/守1300

フィールド上に表側守備表示で存在する

このカードが攻撃対象に選択された場合、

バトルフェイズ終了時にこのカードを破壊する。

このカードが「スクラップ」と名のついた

カードの効果によって破壊され墓地へ送られた場合、  
「スクラップ・ビースト」以外の自分の墓地に存在する  
「スクラップ」と名のついたモンスター1体を選択して手札に加え  
る事ができる。

正直これだと厳しいが、

「更に速攻魔法スクラップ・スコールを発動！」

スクラップ・スコール

速攻魔法

自分フィールド上に表側表示で存在する「スクラップ」と名のつ  
いた

モンスター1体を選択して発動する。

自分のデッキから「スクラップ」と名のついたモンスター1体を  
墓地へ送り、カードを1枚ドローする。

その後、選択したモンスターを破壊する。

「その効果によりデッキからスクラップと名のつくモンスター1体  
を墓地に送りワンドロー！その後フィールド上のスクラップモン  
スターを破壊する！」

「・・・わざわざ召喚したのに破壊するんですか？」

俺もしたくないんだけどな。でも実際俺のハンドに止める手段が  
ないんだから仕方ない。だから

「このドローに懸ける！ドロー！」

引いたカードは・・・

「魔法カード発動！強欲で謙虚な壺！」

強欲で謙虚な壺

通常魔法

自分のデッキの上からカードを3枚めくり、

その中から1枚を選んで手札に加え、

残りのカードをデッキに戻す。

「強欲で謙虚な壺」は1ターンに1枚しか発動できず、

このカードを発動するターン自分は特殊召喚できない。

まだまだ。まだ舞える！

「効果でデッキの上から三枚をめくり、そのうち一枚を選んで手札に加え、残りをデッキに戻してシャッフルする」

めくったカードは・・・

一枚目・・・スクラップ・オルトロス

二枚目・・・次元幽閉

三枚目・・・バトルフェーダー

「俺はバトルフェーダーを選択！」

「・・・見ないカードですね？」

「俺はこのままターンを終了する！」

まだいける。相手がめっちゃこっち見てるけど気にしない。この世界だと効果を言ったら負けだしな。

「まあいいです・・・私のターンです。ドロー！私は裏側表示のゼータ・レティキュラントを反転召喚して・・・プレイヤーに全員でダイレクトアタック！」

「この瞬間、手札からバトルフェーダーの効果を発動！」

「手札から!？」

「このカードは相手が直接攻撃宣言時に手札から特殊召喚できる!、その後、バトルフェイズを終了させる！」

バトルフェーダー

効果モンスター

星1 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻 0 / 守 0

相手モンスターの直接攻撃宣言時に発動する事ができる。

このカードを手札から特殊召喚し、バトルフェイズを終了する。

この効果で特殊召喚したこのカードは、

フィールド上から離れた場合ゲームから除外される。

「なっ・・・!？」

これでリリース要員は確保できた。後は俺のプレイングしだいか・

「なら私はメインフェイズ2に入ってモンスターをセットしてターン終了です」

この状況でセットモンス？・・・いや気にしてる場合じゃないな。どうせこのゴブリンゴメンコンボは相手の場は関係ないし、しいて言えば場が空いてないといけないことだが、まあ一つ空いてるしいいでしよう。

「俺のターン・・・ドロー！」

俺のデッキにバトルフェーダーのようなモンスターは一枚のみ、他の戦闘を止めるようなやつはハンドにない。だからこのターンできめる！

「俺は手札から魔法k」このスタンバイフェイズ時、セットモンスター魂を削る死霊を生贄に、死のデッキ破壊ウイルスを発動します！「あード・・・え？」

魂を削る死霊

効果モンスター

星3 / 闇属性 / アンデット族 / 攻 300 / 守 200

このカードは戦闘では破壊されない。

このカードが魔法・罠・効果モンスターの効果の対象になった時、このカードを破壊する。

このカードが直接攻撃によって相手ライフに戦闘ダメージを与えた時、

相手の手札をランダムに1枚捨てる。

死のデッキ破壊ウイルス

通常罠

自分フィールド上に存在する攻撃力1000以下の闇属性モンスター1体をリリースして発動する。

相手のフィールド上に存在するモンスター、相手の手札、

相手のターンで数えて3ターンの間に相手がドロウしたカードを全て確認し、

攻撃力1500以上のモンスターを破壊する。

「その効果によりあなたの手札、フィールド上の1500以上のモンスターを破壊します」

ここにきて・・・死デツキ・・・だと・・・!?

「それではフィールドには1500以上のモンスターがないので、あなたの手札の1500以上のモンスターを墓地に捨てて下さい」

「・・・」

そういえばこの時代だとまだ使えたのか・・・。まあ今更遅いな。そして送られていくスクラップ・ゴーレムとスクラップ・キマイラ・・・もう無理だな。俺のバックはリビデとブラフのおる埋。ゴーレムだけなら嬉しかったんだが、キマイラまで落とされたらどうしようもないな。

「じゃあ俺はこのま」これから何を見せてくれるんですか?」まあ「?」

急に挟まれたから語尾が変な具合に跳ね上がってしまったじゃないか。

「それで急にどうしたの?わざわざ割り込む形で話し出して」

「いえ。なんだかあのまま何もせずにターンエンドしそうな感じがしたので」



しそも何もしようとしてただけど

「まだ私はあなたのスゴい所を見せてもらっていません。なので止めました」

「いやいや、もう無理でしょ。」

とても死デツキを打った人のセリフだとは思えん

「無理じゃないです。私があの時見たあなたなら大丈夫だと、逆転すると信じています」

いやあの時の俺って…

「普通なら諦めるような状況でも諦めずにデュエルを続けたあなたを…私は信じます」

そんなキラキラした目で言われても…そんな目で見られたら頑張りたくなっちゃうじゃないか

「大丈夫です。あなたならできます!!」

そうだな…

サレンダーしたらカッコ悪いし、何よりここから逆転したら最高にカッコ良くて最高に主人公じゃないか。そんなシチュエーション…燃えなきゃ厨二が廃るってもんだ!と言ってもハンドが変わるわけでもないし、動けなかったのはホントだからどうしようもないんだが…

「…ん？」

よくよく見たらこのハンド、ワンチャンあるくないか？今までそもそも前提条件外だったから考えて無かったが、そもそもこの考えは俺の、俺達の領分じゃないか。だけど、これをすると今まで通りの生活は出来ないだろう。明らかに異質なのだから。だが何を恐れる必要がある？

某生きの良いエビは言いました。諦めたら人の心は死んでしまふと…

だから今こそ言おう。あの言葉を

「スウゥ…かつとピングだぜ！！俺！！」

偶には勢いのままに生きたって良いじゃない

「俺は手札から召喚僧サモン・プリーストを攻撃表示で召喚！効果でこのモンスターは守備表示になる！」

「更に俺はサモン・プリーストの効果発動！手札の魔法カードを一枚捨てることでデッキからレベル4のモンスターを一体特殊召喚出来る。呼びかけに応えて、来い！スクラップ・ビースト！」

「そんなモンスターを二体並べてどうするつもりですか？」

相手がいぶかしんでいるな。まあそれはそうだろう。なんたって今からすることはこの時代にはない召喚方法なのだから

「こつするのさ…俺はレベル4の召喚僧サモン・プリーストとスクリップ・ビーストの2体をオーバーレイ！」

2体のモンスターが光となって、足元にできた渦の中に吸い込まれていく

「な、なにが起こってるんですか!？」

「2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築!エクシース召喚！」

さあこい!新しい時代の希望よ!

「現れる!No.39希望皇ホープ！」

『ホオオオオオオオオオオプ!』

No.39 希望皇ホープ

エクシース・効果モンスター

ランク4/光属性/戦士族/攻2500/守2000

レベル4モンスター×2

自分または相手のモンスターの攻撃宣言時、

このカードのエクシース素材を1つ取り除いて発動する事ができる。

そのモンスターの攻撃を無効にする。

このカードがエクシース素材の無い状態で攻撃対象に選択された時、

このカードを破壊する。

現れるのは希望の名を冠する光の戦士。

「なっ…何ですか！？それは!？」

おお、おお、かなり驚いてるよ。だがまだだ…まだ終わらんよ!

「更に俺はカオスエクシーズチェンジ!現れるCNo.39 希望皇ホーププレイ」

CNo.39 希望皇ホーププレイ

エクシーズ・効果モンスター

ランク4/光属性/戦士族/攻2500/守2000

光属性レベル4モンスター×3

このカードは自分フィールド上の「No.39 希望皇ホープ」の上に

このカードを重ねてエクシーズ召喚する事もできる。

自分のライフポイントが1000以下の場合、

このカードのエクシーズ素材を1つ取り除く事で、

エンドフェイズ時までこのカードの攻撃力を500ポイントアップして

相手フィールド上のモンスター1体の攻撃力を1000ポイントダウンする。

現れた光の戦士が現れた渦に戻っていき、新たにカオスの力を得て戻ってきた。…ここだけ聞くとウルトラmゲブンゲブン

「すごいです…何が起こっているか全くわかりませんが、すごいですー!」

あなたのボキャブラリーの貧困さがすごいです

「さらに驚かせてやんよ!CNo.39 希望皇ホーププレイのモン

スター効果発動！エクシース素材を一つ取り除くことで攻撃力を500ポイントアップする！さらにその後相手モンスター一体の攻撃力を1000ポイントダウンさせる！俺はホープレイのエクシース素材を三つ取り除き、攻撃力を1500アップさせ、ゼータ・レイキュラントの攻撃力を3000ポイントダウンさせる！オーバーレイチャージ！」

ホープレイの周りを飛んでいた三つの光の玉を取り込み、攻撃力を上げるホープとは対照的にゼータ・レイキュラントの攻撃力がダウンして、その攻撃力がゼロになった

「そんな、それって・・・まさか!？」

「いつけええええええええええ！CNO・39 希望皇ホープレイで攻撃力がゼロになったゼータ・レイキュラントを攻撃！」

CNO・39 希望皇ホープレイが背負っていた大剣を振りかざし、一気に切りかかる。・・・腰の剣は使わないのな

「ホープ剣カオスラッシュ!!！」

「きゃあああああああ！」

ホープレイの攻撃がゼータ・レイキュラントにあたりそのまま爆散。その衝撃で相手がよろめいたのと同時に、ライフポイントの尽きた音が響いた。

「というわけで、どうだ！」

なにが「どうだ」か俺自身もわかっていないけど興奮のあまりうまく口が回らん。

「はい！すごかったです！」

それに乗ってくれるこの子はきつといい子。

「あゝ。まじで疲れた。ここまでギリギリで楽しいデュエルは始めてだわ」

それにホーププレイの効果を使ったのも初めてだがこれは楽しいな。これからも使っていく……って

「……見た？」

「なにをですか？」

俺の現実逃避気味の疑問に疑問を返す相手。まあ主語がないから当然だが。

「あの黒いカード」

俺のできれば見ていて欲しくないものだが

「はいっ！」

満面の笑顔で返してくれました。本当にありがとうございます。

「できれば忘れて欲しいんだけど・・・」

「なんでですか！あんなにすごいカードとデュエルを忘れることができるわけないじゃないですか！」

興奮冷めやらぬといった様子で俺に言ってくるのはいいんだけど近い近い。

「どっしても？」

「無理です！」

「ですよー」

「じゃあ俺が勝った時の権利を使います」

「却下で」

「俺が勝ったのに即答！？」

勝者の権利なんてなかったのが判明した

「そんなことよりなんですか！？あのカード！2体のモンスターが合体して黒いカードのモンスターを出したと思えばその出てきたモンスターがまた変形して！とにかくすごかったです！」

「いや、それはその・・・」

かなり気になってるな。まあそりゃそうだろうけどさ。

「でも、今はいいです」

「へ？」

「だって負けちゃいましたし、あなたがしゃべりたそうではありませんから」

それはよかった・・・と安心できたら苦勞はしない。それでも気になるのが人間です

「なので、これから知っていきこうと思います！」

「これから知っていきこうって言うത്？」

「友達になりましょう！」

急展開ここに極まる。どうしてこうなったし。

「嫌だと言った」「あ、敗者権限なので拒否は認めません」初耳すきる

なにその負けるが勝ちみたいなルール。

「はあ〜。こちらこそよろしく」



まあこっちも拒否する理由もないし。友達が増えるのは嬉しいけど。

「はい！よろしくお願いします！これからもすごいものを見せて下さいね！？」

「はいはい」

というわけで

「帰りますか」

「はい。今日はありがとうございました。これからよろしくお願ひします！柊さん！」

晴れ渡るような笑顔で返事をするこの子。

「そういえば」

「はい？」

「なんで俺の名前を？自己紹介したっけ？」

「優樹さんを聞いて回る時に変人さんを知ってますか？と聞いたたら、ああ優樹かと言われたので知ってます」

周りからも変人と思われていた…だと…!!？

『そりゃそつですよ。あれだけ奇行を繰り返してればそつなりませよ』

「…まあ良いけど、じゃあ君の名前は？」

ずっと知らずにデュエルしてたからな

「言ってますでしたか。なら改めて。私の名前は宮田ゆまです！  
これから宜しくお願いします！」

「なら俺も改めて。俺の名前は柊優樹だ。これから宜しく」

友達も増えてこれからの生活が楽しくなりそつだ

結局あの後なんとか頼み込んでエクシーズについては黙っていて  
もらえるようになりました。まる

第六話 これが俺の切り札だ！！（嘘です）（後書き）

スクドラは犠牲となったのだ…ホープレイの犠牲にな…

と言っわけで何故かシンクロ召喚よりさきにエクシーズ召喚が先に登場。だってライフと場が丁度良かったんだもん

投稿が遅れた理由はヒロインを決めるのが大変だったから。

実際の宮田ゆまとはキャラが違いますが気にしないで下さいお願いします

作者はきつとワンキル好き。だって盛り上がるし考えるのが楽だから

読んで下さりありがとうございます

不定期更新ですが次回も見てくださいとありがたいです

感想とか待ってます

もうお前が切り札でいいや おい(前書き)

注：今回はかなりのご都合主義を含みます。ご了承ください

もうお前が切り札でいいや　おい

「こんにちは優樹さん」

「なぜにいるし」

今日も今日とて放課後。当たり前前の如く俺は暇だったので部屋に戻ってしたくも無いが暇だからしょうがなく明日の試験勉強に向けて勉強しようと思つて帰つてきたのだが、なぜかそこには先客が。鍵閉めたよな？

「あ、鍵なら開いてなかったの無理やりドアノブをひねつても開かず、がちゃがちゃしても開かず、叩きつけても開かなかったの蹴飛ばしたら開きました」

「いやそこは途中で諦めるよ！ていうかそれドア壊してんじゃん！」

なにこの娘怖い

「私が着たのに開いてなかったの無理やりあけましたがダメでしたか？」

「ダメ以外の答えが返ってくるとでも思っているのかこの野郎」

女郎だけどな

「当たり前じゃないですか。ドアというのは開け閉めするためにあるんですよ？開けられなくてどうしますか」

「おい、たった今開け閉めの機能のうち閉めの機能を失わせたやつがなにを言う」

「いえいえ、ドアというのは迎え入れるためのものですから。これが正常なんです」

「どうしても自分の責任をどこかにやりたいようだな」

「いえいえ、ドアというのは「もういいよ!」というわけで私に責任はありません」

「たくつ・・・」

この娘めちやくちやめんどくさいんだが。友達になったの失敗だったかな？

「それより優樹さん」

「なんだい？勝手に不法侵入した拳句勝手にお茶を飲み、勝手にいろいろあさっているゆまさん？」

「そんなにツンケンしないでくださいよ。それにお茶は自前ですし、あさっているのは友達の趣味を把握するためですよ」

「なんとという友達甲斐のある友達なのか。俺も思わずお前の部屋に勝手に突撃してしまいそうだよ」

「言質はとつたので何か問題が起きたときはこれで一発ですね!」

「お前は明るくなんてことを言ってくれるんだ!？」

油断もすきもないな

「そんなことより優樹さん」

「明らかにそんなことよりで済ましてはいけない気がするんだが？」

「済ましましょうよ。でないと進みませんし」

「どう聞いても俺の追及から逃れるために話題をそらしているような気がしてならない件」

「さっき優樹さんの部屋をあさっているときに思ったのですが」

スルーですか。そして少しはごまかせ

「カードとかどこにおいてあるんですか？」

「なんで教えなくてはいかん」

「え〜良いじゃないですか！減るものでもないですし！なによりあの黒いカードとか見たいです！」

それが本音か。そして減るよな？俺の情報アドバンテージが

「まあいいけどな」

「良いんですか！？」

「ダメって言うてもしつこそうだな」



それに何より今はこの部屋の中だから良いけど、この学校、外からの娯楽が少ない分プラス、デュエルについての学校だから知らないが、話の大半はデュエルモンスターズについての話題で占められている。そんな中で見せる見せないだの話をしているとそんなに珍しいカードを持っているのかということと他のやつらが興味を持って突撃してきかねん

「じゃああの黒いカードを見せて下さい！」

「え〜い！そんなにキラキラした目でこっちによつてくんない！」

「なに言ってるんですか！あんなにすごいカードを見られんですよ！これが興奮せずにいられますか！」

「わかったから！わかったから離れる！頼むから離れて下さいお願いします！」

「仕方ないですね・・・」

あれ？なんで俺が謝罪してんだ？俺が見せてあげるんだよな？

「さあ早く！」

「はあ〜。しょうがないな・・・。ほれ、このデッキに入ってるから勝手に見といて」

「え。デッキごと見せてくれるんですか？」

「いちいち分けるのが面倒だから」

それに俺のデッキはそれだけじゃないし

「じゃあ遠慮なく」

そう言っつてそのままデッキを見だすゆま。それにしてもゆまっつてこんなキャラなのか。なんというかなんでかわからないが違和感を感じるな。もつところ・・・なんというか・・・とりあえず人を信じるみたいなのが性格だと思っつてたんだが・・・あれ？なんでゆまの性格を知つてるんだ？知つてる？あれ？

『それより先はダメですよ』

・・・あれ？なんか考えてたような？

「・・・まあいつか」

気にしても仕方ないな。ようやくゆまも静かになったんだし、試験勉強でもしますか

あ、タッグフォースか。

『ちつ。それっぽい雰囲気出したのにダメかよ』

雰囲気できたらすごいわ。俺も折角のつたのに普通に思い出しちゃったし。そして思い出したところでやっぱり性格違くないか？

「優樹さん幽鬼産」

「ちよ、そんなどこから出荷されたみたいに呼ばないで！？しかも幽鬼つて恐ろしすぎる」

俺がそんなことを考えていると恐ろしい呼び方で俺を呼んできた。幽鬼産であーた。

「？何をいつてるんですか？急に自分の名前が恐ろしいとか。自意識過剰ですか？天上天下唯我独尊俺様最強ですか？」

俺様最強は知らんがな。ちよつとスルーしそつだつたじゃねーか

「・・・日本語つて難しい」

「よくわかりませんね。まあいいです。それよりもつ見終わりました」

「あれ？もう？」

「はい。どうせ優樹さんのデッキなんて見ても意味無いと思ったのでなぜか纏められてた黒いカードだけ見させてもらいました」

「意味無いって・・・」

「それよりどうして黒いカードだけデッキに混ぜず分けてあるんですか？」

「なんでって、そりゃあ入れられないからだが？」

「え？入れられないんですか？」

「え？入れなきゃいけないんですか？」

「え」

「え」

『え』

便乗すんな

『サーセン』

「入れられないのに私との決闘のときに入れてたんですか？もしかしてズルですか？」

「え、ズルじゃないけど？」

「入れられないのに入れててズルじゃない？え？ん？あれ？おう？」

色々こんがらがってゆまが壊れてるし。ていつかどうしてこんな  
った？

「一旦落ち着け。ほら、お茶でも飲んで」

「あつゝ?」

俺がお茶を渡すとそのまま飲み、徐々に落ち着いたようでも話しました

「えっと。ありがとうございます。っていつかこれって私のお茶じゃないですか」

「それはそうだろう。だって近くにあったのがお前のしかなかったんだもの」

「・・・なんだか納得できません」

お前は何を期待してたんだ。そのまま懽然としていればよかったのに急に顔をこちら向け大声で話し出した

「それより! どういうことですか! 入れられないのに入っているとかもつこんがらがらるじゃないですか!」

「そんなこといわれてもなあ。普通にエクストラデッキに入れてるだけなんだが」

「エクストラデッキ・・・ですか?」

「あれ? 知らない?」

「知りませんよ! 私が知っているデッキはメインデッキと融合デッキとサイドデッキだけですよ!」

「あ、そうか。」

「まだこの時代はシンクロが登場してないから融合デッキのままなのか」

「一人で納得しないで私にもちゃんと教えて下さい」

「悪い悪い」

「どうにも俺一人が納得いったのがお気に召さなかったらしい」

「エクストラデッキって言うのは融合デッキのことだよ。俺のところだとエクストラデッキって融合デッキのことを呼んでたんだよ」

融合デッキは何枚でも入れられるけどエクストラデッキには15枚しか入らないみたいに厳密には違うけど別にいつか。この世界じゃオリヌシ君意外誰もわからないだろうし

「そういうことだったんですか。じゃあこの黒いカード達は融合デッキに入っているんですね？」

「その認識で良いよ」

「……まるで違うけどそこまで外れてないからそれでいいやみたいな言い方ですね」

「融合デッキに入ってます（キリッ）」

「……なんでか知りませんがすごいイラッとききました」

「はっはっは。気のせいじゃね？」

だからヴェーラーさん。後ろから俺をなぐるのは止めないさい。攻撃力ゼロだから痛くないけどなんとなく感触はあるから

『今ほど攻撃力がゼロなのを怨んだことはありません』

「……まあいいです。それより、この黒いカードの説明をしてくださいよ」

「え〜。しなきゃダメ？」

「しなくても良いですけどその場合悲鳴をあげます」

「説明させて下さい」

いい笑顔でそんな脅しをかけてくるあなたが素敵です……。そしてレッド寮でそんなことされたら俺の命がいくつあっても足りん！社会的抹殺と身体的抹殺があるから最低三個はいるな

『何阿呆なこと考えてるんですか』

とどのつまり一個しか命の無い俺はオーバーキルされたことになるな

「さあ早く説明して下さい」

「……了解」



仕方なく説明する

「説明しよう!」

『ノリノリですな』

だって説明するのってテンションあがらない?

「その黒いカードはモンスター・エクシーズと呼ばれるカードである。決してDSなどではないので注意すること!そしてモンスター・エクシーズはエクストラデッキに置かれ、その召喚条件を満たした時エクストラデッキから特殊召喚される。この召喚はエクシーズ召喚と呼ばれる」

「DS?」

「気にしたらダメです!」

主に俺の未来がダメになる的な意味で

「そして気になるその召喚方法だが・・・」

「だが・・・?」

「次回に続「きゃ」かせようと思ったけど今纏めてしようかな!?」

無意味な引き延ばしってよくないよね!

「ゴホンッ・・・さて、先程も言ったようにモンスター・エクシーズはある召喚条件を満たした時のみに特殊召喚されるわけだが・・・」

その条件がなにかわかるかい？」

「何キャラですかそれ。きもいです」

「今の俺がその程度の罵倒でひるむと思ったら大間違いだ！さあさあさあさあ！その条件とは！」

「・・・場のモンスターを生贄にすることですか？」

嫌そうな顔をしながらも答えてくれるゆまさん素敵です！

「ぶつぶー！違います！不正解です！」

「（イラッ！）」

なにか不穏な気配がゆまちゃんから漂ってきたが、今の俺は止まらんぞ！

「それじゃあただの特殊召喚が可能な生贄召喚でしょうが！でも惜しい！」

シンクロ召喚なら後はレベルについて言及するだけなのだが、エクシーズ召喚は少し違うのだよ

「答えはモンスター・エクシーズに書かれている条件を満たすでした！」

「融合モンスターみたいですね？」

「ところがぎゅっちゃん！そうは問屋がおりさない！融合モンスター

はテキストに書かれた固定のモンスターを墓地に送って融合するのだが、モンスター・エクシーズは指定の条件にあった同レベルモンスターを指定されている数だけフィールド上に揃え、その素材にするモンスターたちを重ねた上に重ねて特殊召喚するモンスターなのだ！」

「重ねる・・・ですか？」

「そそ。それにほら、そのカードを見てごらん？」

丁度さつきからゆまちゃんが持っていたエクシーズモンスターを参考にする

「あ、ほんとだ。テキストにレベル4モンスター×2つて書いてある」

「つまりそういうことだよ！」

「でも重ねたモンスターはどうするんですか？」

「いい質問だ！モンスター・エクシーズの下に重ねられたモンスター達はオーバーレイ・ユニットまたはエクシーズ素材と呼ばれるのさ！そしてモンスター・エクシーズの効果を読めばわかるとおり基本的にオーバーレイ・ユニットを使うことで効果を発揮するのさ！」

だがパール、テメーはダメだ

「だから私とのデュエルするときも素材を取り除いて効果発動って言っていたんですね」

「That's right! ついでにあの時モンスター・エクシ  
ーズが取り込んでいた光の玉がオーバーレイ・ユニットさ!」

「へ」

感心したように首を振るゆまちゃん

「そしてモンスター・エクシーズ最大の特徴がレベルではなくラン  
クで表記されるということところだ!」

「ランク?」

「そう。モンスター・エクシーズにのみ適応される新しい概念で、  
基本的に素材にしたモンスターのレベルと同じランクになるのさ。  
レベル4を素材とすればランク4になるみたいだね」

「へ」

「ついでに言うとレベルではなくランクで表記されているからレベ  
ルに関する効果は受けないぞ! 例えばロックで有名なグラヴィティ・  
バインドとかも効果を受けずにすり抜けることができるのさ!」

「恐ろしいですね」

他にも色々あるんだけど

「基本事項はこんなものだ! 説明終わり! Q・E・D」

『証明しろよ』

「すみません出来心だったんです」

「何を急に言ってるんですか？」

ゆまちゃんが独りでに謝りだした俺にドン引きしている。おいこらその笑っている精霊お前のせいだぞコノヤロー

「ともかく！その黒いやつはモンスター・エクシーズで重ねて召喚するだけの簡単なカードです！おk!？」

「何を急にテンションが上がっているかは知りませんが、このエクシーズというカードについてはわかりました」

「それはよかった」

「ところでものは相談なのですが・・・」

「うん？」

なんともいいずらそうにしている。そんなにもじもじされるとただただ俺の理性が危ないんだが？主に気持ち悪い的な意味で

「ほらほら。なにをもじもじしているんだい？ゆまちゃんよ！言うて御覧なさい！」

「じゃあ・・・このモンスター・エクシーズください！」

「却下で」

「そこはあっさり認めて、え、いいんですか!?!の流れじゃないん

ですか？」

何を言っているのかこの小娘は。何のために口止めをお願いしているのかと。あげて使われたら本末転倒じゃなか

「ダメに決まってるだろダラス」

「え〜ダメですか？」

「ダメです」

「え〜。なんだかこのカードに親近感というかなんというかが感じられたんですが・・・」

そういつて一枚のエクシースモンスを見るゆまちゃん。そこに描かれているのは

「N O . 3 9 希望皇ホープ？」

なんでゆまちゃんがホープに親近感を？

「そつえば」

「ん？」

「見て思ったんですがこのちよいちよいあるN O ってるんですか？」

「ああ。それ？ただのカテゴリみたいなものだよ」

「へ〜。エクシースにもカテゴリーがあるんですね」

まあ今の時代ならその認識でいいっしょ。・・・あれ？Noって  
たしかアストラルの記憶の破片的な扱いだよな？それが今の時代か  
らあっていいのか？・・・いつか！どうせそのときには死んでるし  
な！

『はっ！？今なんかフラグが立った気が！？』

おまいは何を言っているのかと。むしろそのセリフがフラグだと  
俺は思う

「まあいいでしょう」

「・・・噂は聞いていたんですが本当にあなたは変人なんですな」

「そんなにしみじみ言わんでください」

俺のヒットポイントはもうゼロよ！

「まあ今更ですか」

『今更です』

「友達になってから一日しかたっていない友達に今更とか言われる俺  
って・・・」

「あ、そろそろ帰りますね」

「そして俺はスルーですねわかります」

「じゃあこれで」

「じゃ」

そしてそのまま帰っていくゆまちゃん。完全なるスルーに俺脱帽だわ。ん？なんか紙が落ちてる？なにになに？

『エクシーズは諦めませんのでよろしく』

「音読ありがとよ。そして諦めろよ。ついでにいつ書いたんだよ」

芸が細かいらしいな

『それよりあの娘が帰ったのに勉強しなくていいんですか？』

「それはどうでもいいや」

興もそがれたし。それに・・・

「それにしてもゆまちゃんが感じた親近感って一体・・・？」

まあ気にしても意味無いか



「あ、タツゲフォースか」

『その流れ二回目』

あれから日にちがたち、俺達にとって初めての月一テストがやってきたわけだが

「十代は犠牲となったのだ。ルームメイトの犠牲にな」

起こしてやれよと思った俺は悪くない。お前も起こしてやれよと言われても知らん。同室なのに起こさなかった翔とコアラとオリ又シ君よりマシじゃね？俺の筆記？余裕っしょ

「またご病気ですか？」

「病気いつなし」

これまたこの前と変わらずゆまちゃんと実技試験まで駄弁つているところ

「それより聞きました？」

「なにがだ？」

「実は今日。新しいパックが入荷されたらしいんですけど」

ああ。あの原作イベントね。確かクロノス教諭が買い占めたんだっけ？よくお金あったな

「どうも買い占められてしまったらしくてですね」

やっぱりか

「しかもその犯人が」

はいはいクロノス教諭だろ？

「どうも生徒らしいんですよ」

・・・おや？

「しかも、本当なら予約できないはずのバックを予約して買い占めたらしく、どうにもできないみたいなんですよ」

・・・まだだ！たしかクロノス教諭は学生に変装して買い占めていたはず！

「この情報もよく購買に通っている私だから入手できたんですよ」

「へ、へえ〜」

「それですね？どうやらその生徒はオシリスレッドの寮生で、変人として学校で有名らしいですよ？」

「・・・」

「全く迷惑な話だとは思いませんか？優樹さん」

「せ、せやな！ほんとに迷惑なやつがいるんだな！」

「しかも予約だから知りませんがどうも受け取り表を書いたらし

く実は名前も「スイマセンでしたああああああああ」

そんな逃げ道をふさぐように徐々に追い詰めていくように俺をいたぶるのは止めて！俺のライフはマイナスよ！そんな土下座している俺に対して心底良い笑顔を向けてくるゆまちゃん

「それじゃああのカードをくれますね？」

「はい・・・」

俺に拒否権なんかあると思ったの？馬鹿の？死ぬの？むしろ殺せよおおおおおおおおお！？

そんな訳でカード買占めをできなかったクロノスからデッキ強化を受けられなかった万丈目が十代に勝てるはずも無く、普通に負け、十代はなんと偶然入荷ミスで余ったパックで進化する翼を手に入れたらしく、普通に勝っていた。俺？俺は・・・

「おい！なにをやっている！早くデュエルディスクを構えろ！」

万丈目だと思っただ？残念！

「懲りずに俺に挑戦してくるようだが、また俺のシューティングスターでぶっ飛ばしてやるよ！」

オリヌシ君でした！

「ていうかなんでまたお前なんだよ！」

お前ほんとは俺のこと大好きなんだろ！もう何回目だよお前とデュエルすんの！飽きたよ！何が悲しくてほぼワンキルのデッキのやつと何回も何回もデュエルしなくちゃいけないんだよ！もういいよ！もう完全にメタれるくらい特徴とか覚えちゃったよ！

「どうも俺の相手ができるのがオシリスレッドだとお前か十代の二人くらいしかいないらしくてな。十代は万丈目だから俺の相手はお前になっただ」

俺ってそんなに強い立ち位置だっけ？とか思って生徒達のほうを見ると俺に向かって合唱しているやつらが数人。・・・あいつら俺を売りやがったな！？

(だってあんな強いやつとデュエルしたら負け確だし)



「それとってはなんですが。このカードをあげます」

「これは・・・？」

俺に手渡される一枚のカード

「昨日モンスター・エクシーズを見ていたときに丁度このカードと相性がよさそうなカードがあったのであげようと思って」

「・・・ありがとう」

「いえいえ。ついでにそのカードを今日の試験で使わないと友情の証を捨てられたとみなしてあなたが買占めの犯人だと全校に「入れました！使います！」よろしい」

「それでは試験の準備があるのでこれで」

そう言って去っていくゆまちゃんに俺は伝えることができなかった

「俺、このカード持つてる・・・」

そんな訳でいらぬカードが一枚余分に入っている状態で試験に臨んだわけだが

(だれが初手に来ると思うかこの野郎！)

というわけさ。しかもこのカード。先程の回想で言われたとおり、モンスター・エクシーズとのシナジーはあっても、俺のデッキに対してシナジーはゼロに等しいカードなのである。しかも誰が好き好んで月一テストなんて目立つ場所でエクシーズなんて使うかよ。そのせいで俺の初期手の6枚のうち5枚しか使えなくなってしまうた

(問題はありまくるが、ともかく普通に落ち着いてプレイすれば何とかならぬもないといいな……。いや！考えを変える！一枚使えないカードがあるのでなく、1アドハンドを背負ってプレイしているのだと。むしろ俺が先攻なんだからアドは一緒だと考えればいい！それにブラフに使えただけました！)

「俺はモンスターをセット！さらにカードを3枚セットしてターンエンド！」

一応全力で守りの態勢を整えたけど、相手のチート引きにどこまで対応できるか……。え？いつもよりやけに必死じゃないかって？それはそうだろう。なんせこれからの進路がかかっているんだ。いくら筆記がよくてもデュエルアカデミアはデュエルの名を冠しているだけあってデュエルの実力に比重を置かれている。筆記がほとんど最低だった十代が進級できたのがいい例だろう。というわけで、



いかに相手がシンクロ使いだからといって適当にやって負けるわけにはいかんのですよ

「ならば俺のターン！ドロー！俺は手札から魔法カード調律を發動！」

調律

通常魔法

自分のデッキから「シンクロン」と名のついたチューナー1体を手札に加えてデッキをシャッフルする。

その後、自分のデッキの上からカードを1枚墓地へ送る。

「このカードはデッキからシンクロンと名のつくモンスター1体を選択し、手札に加え、その後、そのレベル分デッキの上から墓地に送る。俺はジャンクシンクロンを手札に加える！」

ここまでテンプレやな

「俺は手札を一枚墓地に送り手札からチューナーモンスタークイック・シンクロンを特殊召喚！現れる！クイックシンクロン！さらにさつき墓地に送られたレベルステイラーの効果発動！フィールド上に存在するレベル5以上のモンスターのレベルを一つ下げ墓地から特殊召喚できる。俺はレベル5のクイックシンクロンのレベルを一つ下げレベルステイラーを特殊召喚！」

クイック・シンクロン

チューナー（効果モンスター）

星5 / 風属性 / 機械族 / 攻 700 / 守 1400

このカードは手札のモンスター1体を墓地へ送り、手札から特殊召喚する事ができる。

このカードは「シンクロン」と名のついたチューナーの代わりにシンクロ素材とすることができる。

このカードをシンクロ素材とする場合、「シンクロン」と名のついた

チューナーをシンクロ素材とするモンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。

レベル・ステイラー

効果モンスター

星1 / 闇属性 / 昆虫族 / 攻 600 / 守 0

このカードが墓地に存在する場合、自分フィールド上に表側表示で存在する

レベル5以上のモンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターのレベルを1つ下げ、このカードを墓地から特殊召喚する。

このカードはアドバンス召喚以外のためにはリリースできない。

「俺はさらに手札からドッペルウォリアーを特殊召喚！このモンスターは墓地からモンスターが蘇生に成功したときに手札から特殊召喚できる！」

ドッペル・ウォリアー

効果モンスター

星2 / 闇属性 / 戦士族 / 攻 800 / 守 800

自分の墓地に存在するモンスターが特殊召喚に成功した時、

このカードを手札から特殊召喚することができる。

このカードがシンクロ召喚の素材として墓地へ送られた場合、

自分フィールド上に「ドッペル・トークン」

(戦士族・闇・星1・攻/守400)2体を攻撃表示で特殊召喚する事ができる。

「そして俺はレベル2ドツペルウオリアーと、レベル1レベル・ステイラーにレベル4のクイツクシンクロンをチューニング！集いし怒りが忘我の戦士に鬼神を宿す。光さす道となれ！シンクロ召喚！吠える、ジャンク・バーサーカー！」

ジャンク・バーサーカー

シンクロ・効果モンスター

星7/風属性/戦士族/攻2700/守1800

「ジャンク・シンクロン」+チューナー以外のモンスター1体以上  
自分の墓地に存在する「ジャンク」と名のついたモンスター1体をゲームから除外し、

相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。

選択した相手モンスターの攻撃力は、除外したモンスターの攻撃力分ダウンする。

また、このカードが守備表示のモンスターを攻撃した場合、ダメージ計算を行わずそのモンスターを破壊する。

ちよ！そんなネタにされるようなシンクロモンスターまで入ってるのかよ！？・・・いやまあ強いんですけどね？今現在困ってるし、つてふざけてる場合じゃねえ！？

「それは困る！？罨発動！奈落の落とし穴！効果でジャンクバーサーカーを破壊し、ゲームから除外！」

奈落の落とし穴

通常罨

相手が攻撃力1500以上のモンスターを

召喚・反転召喚・特殊召喚した時に発動する事ができる。

その攻撃力1500以上のモンスターを破壊しゲームから除外する。

「ちっ！ならば素材にしたドッペル・ウォリアーの効果発動！このカードがシンクロ召喚の素材として墓地へ送られた場合、自分フィールド上にドッペル・トークン2体を攻撃表示で特殊召喚する事ができる！現れる！ドッペル・トークン！」

フィールドに先程シンクロ素材に使われたドッペル・ウォリアーをデフォルメしたようなモンスターが2体現れるのだが、正直そんなに可愛くないな。うん

『どこに注目してるんですか』

「そういうところに目を向けないとやってられない程度に困ってるんだよ」

「何をぶつぶつ言っている！俺のターンは終了してないぞ！」

終了して下さい！

「更に手札からをゾンビキャリアコストにワン・フォー・ワンを發動！」

ゾンビキャリア

チューナー（効果モンスター）

星2 / 闇属性 / アンデット族 / 攻 400 / 守 200

手札を1枚デッキの一番上に戻して発動する。

墓地に存在するこのカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

この効果で特殊召喚されたこのカードは、

フィールド上から離れた場合ゲームから除外される。

ワン・フォー・ワン

通常魔法

手札からモンスター1体を墓地へ送って発動する。

手札またはデッキからレベル1モンスター1体を

自分フィールド上に特殊召喚する。

「その効果でデッキからグローアップ・バルブを特殊召喚！」

グローアップ・バルブ

チューナー（効果モンスター）

星1/地属性/植物族/攻 1000/守 1000

自分のデッキの一番上のカードを墓地へ送り、

墓地に存在するこのカードを自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

「グローアップ・バルブ」の効果はデュエル中に1度しか使用できない。

「俺はレベル1ドッペル・トークンにレベル1チューナーモンスターグローアップバルブをチューニング！集いし願いが新たな速度の地平へ誘う。光さす道となれ！シンクロ召喚！希望の力、シンクロチューナー、フォーミュラ・シンクロン！」

フォーミュラ・シンクロン

シンクロ・チューナー（効果モンスター）

星2/光属性/機械族/攻 2000/守1500

チューナー+チューナー以外のモンスター1体

このカードがシンクロ召喚に成功した時、

自分のデッキからカードを1枚ドロウする事ができる。

また、相手のメインフェイズ時、自分フィールド上に表側表示で存在する

このカードをシンクロ素材としてシンクロ召喚をする事ができる。

「効果によって俺はデッキからワンドロー！」

いつまで続くのか。毎回オリヌシ君ってこれだから暇で暇でしようがない

「さらに俺は手札からジャンク・シンクロンを召喚！」

ジャンク・シンクロン

チューナー（効果モンスター）

星3 / 闇属性 / 戦士族 / 攻1300 / 守500

このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在する

レベル2以下のモンスター1体を表側守備表示で特殊召喚することができる。

この効果で特殊召喚した効果モンスターの効果は無効化される。

「その効果で墓地よりドツペル・ウォリアーを特殊召喚！俺はレベル1ドツペル・トークンとレベル2ドツペル・ウォリアーに、レベル3、チューナーモンスター、ジャンク・シンクロンをチューニング！疾風の使者に鋼の願いが集う時、その願いは鉄壁の盾となる！光さす道となれ！シンクロ召喚！現れよ、ジャンク・ガードナー！！！」

ジャンク・ガードナー

シンクロ・効果モンスター

星6 / 地属性 / 戦士族 / 攻1400 / 守2600

「ジャンク・シンクロン」+チューナー以外のモンスター1体以上

1ターンの1度、相手フィールド上に存在するモンスター1体を選択し、

表示形式を変更する事ができる。

この効果は相手ターンでも発動する事ができる。

このカードがフィールド上から墓地へ送られた場合、

フィールド上に存在するモンスター1体を選択し、

表示形式を変更する事ができる。

マジでか……。それって映画で出たやつだったような。そんなのまで持つてるのかよ……

「さらに素材にされたドツペル・ウォリアーの効果でドツペル・トークンを2体特殊召喚！そして俺はレベル6ジャンク・ガードナーに、レベル2、シンクロチューナー、フォーミュラ・シンクロンをチューニング！集いし願いが新たに輝く星となる。光さす道となれ！シンクロ召喚！飛翔せよ、スターダスト・ドラゴン！」

スターダスト・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星8 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻2500 / 守2000

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

「フィールド上のカードを破壊する効果」を持つ

魔法・罫・効果モンスターの効果が発動した時、

このカードをリリースする事でその発動を無効にし破壊する。

この効果を適用したターンのエンドフェイズ時、

この効果を発動するためにリリースされ墓地に存在するこのカードを、

自分フィールド上に特殊召喚できる。

『ギヤオオオオオオオオオオオオ！』





とは自分もちよつとそう思ってるだろ！

「そして俺は手札を一枚デッキトップに戻すことによって墓地よりゾンビ・キャリアを蘇生させる！更にフィールド上のシューティング・スターのレベルを一つ下げて、墓地よりレベルスティーラーを特殊召喚！そして俺はレベル1ドッペルトークンとレベルスティーラーに、レベル2、チューナーモンスターゾンビキャリアをチューニング！シンクロ召喚！アームズ・エイド！」

アームズ・エイド

シンクロ・効果モンスター

星4 / 光属性 / 機械族 / 攻1800 / 守1200

チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に装備カード扱いとしてモンスターに装備、

または装備を解除して表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。

この効果で装備カード扱いになっている場合のみ、

装備モンスターの攻撃力は1000ポイントアップする。

装備モンスターが戦闘によってモンスターを破壊し墓地へ送った時、

破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

「アームズ・エイドの効果発動！効果でシューティング・スターに装備！これにより、シューティング・スターの攻撃力は1000上昇する！」

現れた機械の腕を装着し、パワーアップを遂げる流星龍。でもお前の攻撃方法って確か体当たりだったような？でも一応腕を使ったこともあるしいいのか？

「シューティングスターの効果発動！デッキトップの上から5枚を確認し、その中のチューーの数だけ攻撃できる！」

そう。普通のデッキでそんな効果を使ったら普通は1枚出れば助かった。2枚出れば御の字。というところだが、ジャンドなどのチューナーが多く含まれるデッキは別だ。しかも相手はオリヌシ君。最低でも三回は攻撃してくるな

「まず一枚目！チューナーモンスターアンノウンシンクロン！二枚目！魔法カード貪欲な壺。三枚目！チューナーモンスター、デブリドラゴン！四枚目！チューナーモンスター、ジャンク・シンクロン！五枚目！モンスターカード、チューニングサポーター！よってこのターン！シューティングスターは三回の攻撃権を得る！」

本当に三回引くとか何それこわい

「バトル！シューティングスターで相手の伏せモンスターを攻撃！スターダストミラーージュ！」

三対に分身した流星龍の一体が俺の伏せモンスターにむかって突撃してくる

「だが甘い！俺の伏せモンスターは戦闘では破壊されないスクラップ・ゴ布林さー！」

スクラップ・ゴ布林

チューナー（効果モンスター）

星3 / 地属性 / 獣戦士族 / 攻 0 / 守 500

フィールド上に表側守備表示で存在する

このカードが攻撃対象に選択された場合、

バトルフェイズ終了時にこのカードを破壊する。

このカードが「スクラップ」と名のついた

カードの効果によって破壊され墓地へ送られた場合、

「スクラップ・ゴブリン」以外の自分の墓地に存在する

「スクラップ」と名のついたモンスター1体を選択して手札に加える事ができる。

また、このカードは戦闘では破壊されない。

「どやあ。こうやって言っておけば勝手に戦闘しても意味無いと思って攻撃を止めてくれるからこの世界は楽だわ。嘘も言っていないからルール違反もしてないし」

「ちい！ならばシューティングスター！腹いせに追加攻撃！」

「とか思ってたら。ちょ！？腹いせとか勘弁！その発想はなかったんだが！？」

「ふん！俺はメインフェイズ2に移行！」

「・・・スクラップゴブリンの効果を発動。フィールド上に表側守備表示で存在するこのカードが攻撃対象に選択された場合、バトルフェイズ終了時にこのカードを破壊する・・・」

「せっかくこの学園で作り上げてきたゴブリンの鉄壁具合が・・・これで次誰かと戦うときに追加攻撃をくらっちゃうじゃないか！・・・まあ時と場合によってはそれも嬉しいんだけど」

「なんだ。そんな効果があったのか。攻撃して正解だったな。俺は改めてメインフェイズ2に移行し、カードを一枚伏せてターンを終了！」

・・・まあいいでしょう。アドは取れたし。後は流星龍をどかすカードを引けば良いけど

「俺のターン。ドロー！」

まあそんなに都合も良くないか

「俺はモンスターを一体セットしてターン終了！」

「ふん！防戦一方か。俺のターンドロー！そのままバトル！シューティングスターでセットモンスターに攻撃！スターダストミラージュ！」

「俺のセットモンスターは魂を削る死霊！効果でこのモンスターは戦闘では破壊されない！」

魂を削る死霊

効果モンスター

星3 / 闇属性 / アンデット族 / 攻 300 / 守 200

このカードは戦闘では破壊されない。

このカードが魔法・罠・効果モンスターの効果の対象になった時、このカードを破壊する。

このカードが直接攻撃によって相手ライフに戦闘ダメージを与えた時、

相手の手札をランダムに1枚捨てる。

「ちっ！またうざい壁モンスターか。ならば俺はこのままターンエンドだ」

「じゃあ俺のターン。ドロー！」

正流星龍を除去しない限りシンクロもエクシーズも使えない俺に勝ち目はない。けどその除去の手段を引かないんだからなんとかして耐えるしかないわな

「俺はモンスターをセットしてターンエンド！」

「またセットモンスターか。いい加減攻めてきたらどうだ？」

「そんな化け物みたいなモンスターを召喚しといてよく言っよ」

「ふん。まあいい。俺のターン、ドロー！」

ニイツという音が似合いそうな顔を شدしたオリヌシ君。・・・いやだなあ

「俺は手札から精神操作を発動！対象はそのセットモンスターだ！」

「やばっ!?!」

それは予想外だったわ

精神操作

通常魔法

このターンのエンドフェイズ時まで、相手フィールド上に存在するモンスター1体のコントロールを得る。

このモンスターは攻撃宣言をする事ができず、リリースする事もできない。

「その効果でセットモンスターのコントロールを得る！さて、反転召喚だ！」

反転され現れたのは召喚僧サモンプリースト

召喚僧サモンプリースト

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 魔法使い族 / 攻 800 / 守 1600

このカードはリリースできない。

このカードは召喚・反転召喚に成功した時、守備表示になる。

1ターンに1度、手札から魔法カード1枚を捨てる事で、

デッキからレベル4モンスター1体を特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したモンスターは、そのターン攻撃できない。

「ほう。いいモンスターを持ってるじゃないか。遠慮なく使わせてもらおう」

「くっ！だが効果で守備になってもらっぞ！」

「ふん」

・・・とは言ったものの、状況は最悪だ。シンクロデッキにサモンプリを持っていかれるなんて

「手札の魔法カードを1枚墓地に送り効果発動！その効果でデッキからレベル4のモンスターを一体表側守備表示で特殊召喚できる。来い！デブリドラゴン！」

デブリ・ドラゴン

チューナー（効果モンスター）

星4 / 風属性 / ドラゴン族 / 攻1000 / 守2000

このカードが召喚に成功した時、

自分の墓地に存在する攻撃力500以下のモンスター1体を  
攻撃表示で特殊召喚する事ができる。

この効果で特殊召喚した効果モンスターの効果は無効化される。

このカードをシンクロ素材とする場合、

ドラゴン族モンスターのシンクロ召喚にしか使用できない。

また、他のシンクロ素材モンスターはレベル4以外のモンスター  
でなければならない。

・・・これってやばくね？

「俺はレベル4召喚僧サンプリーストに、レベル4チューナーモ  
ンスターデブリ・ドラゴンをチューニング！」

・・・は？

「王者の鼓動！今ここに列をなし・・・てないだ！？」

そこには何も変わらずにい続けるサモブリとデブドラさんがいた。  
ていうかオリヌシ君知らなかったのか？デブリドラゴンの効果

「なんでだ！？なぜシンクロできない！？」

「いや・・・効果読めよ」

「効果だと！？・・・」

デブリドラゴンのテキストを読み出すオリヌシ君。・・・マジで

知らなかったのか。勘違いしやすいけどあいつってレベル4のモンスターをチューニングできないんだよね。最初は結構忘れがちだけど結構大事な制約なんだよなあ。あれないとただのチートカードだし

「・・・俺はカードを一枚伏せてターンエンドだ！」

「じゃあエンドフェイズにサンプリーストは俺のフィールドに戻ってくる！そしてそのまま俺のターン！ドロロー！」

相手が阿呆だったからよかったけど今はマジでやばかった。油断したら一発で持ってかれるな。これだからジャンドは！

「・・・俺は手札から魔法カードを一枚捨て、サンプリーストの効果を発動！その効果でデッキからレベル4のスクラップビーストを守備表示で特殊召喚！呼びかけにこたえろ！スクラップ・ビースト！」

スクラップビースト

チューナー（効果モンスター）

星4/地属性/獣族/攻1600/守1300

フィールド上に表側守備表示で存在する

このカードが攻撃対象に選択された場合、

バトルフェイズ終了時にこのカードを破壊する。

このカードが「スクラップ」と名のついた

カードの効果によって破壊され墓地へ送られた場合、

「スクラップ・ビースト」以外の自分の墓地に存在する

「スクラップ」と名のついたモンスター1体を選択して手札に加える事ができる。



俺にこのターンでできることは守備を固めるだけだ。なんとか早くあいつを除去できる手段を持ってこないと・・・

「俺はカードを一枚セットしターンエンドだ！」

「この瞬間！罨カード、リビングゲットの呼び声！を発動！」

リビングゲットの呼び声

永続罨

自分の墓地のモンスター1体を選択し、表側攻撃表示で特殊召喚する。

このカードがフィールド上から離れた時、そのモンスターを破壊する。

そのモンスターが破壊された時このカードを破壊する。

「この効果で墓地に存在するドッペル・ウォリアーを特殊召喚！そして俺のターン！ドロー！俺は手札からチューニング・サポーターを召喚！」

チューニング・サポーター

効果モンスター

星1 / 光属性 / 機械族 / 攻 1000 / 守 3000

このカードをシンクロ召喚に使用する場合、

このカードはレベル2モンスターとして扱う事ができる。

このカードがシンクロモンスターの

シンクロ召喚に使用され墓地へ送られた場合、

自分はデッキからカードを1枚ドローする。

「そして俺は墓地のレベル・ステイラーをシューティングスターのレベルを下げて特殊召喚！」

・・・あれが来るのか

「俺はレベル1レベル・ステイラーとチューニング・サポーターとレベル2、ドッペル・ウォリアーに、レベル4チューナーモンスター、デブリドラゴンをチューニング！王者の鼓動、今ここに列をなす。天地鳴動の力を見るがいい！シンクロ召喚！我が魂、レッド・デーモンズ・ドラゴン！！」

レッド・デーモンズ・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星8 / 闇属性 / ドラゴン族 / 攻3000 / 守2000

チューナー + チューナー以外のモンスター1体以上

このカードが相手フィールド上に存在する守備表示モンスターを攻撃した場合、

ダメージ計算後相手フィールド上に存在する守備表示モンスターを全て破壊する。

このカードが自分のエンドフェイズ時に表側表示で存在する場合、このターン攻撃宣言をしていない自分フィールド上のこのカード以外のモンスターを全て破壊する。

「やばっ!?!」

「シンクロ素材になったドッペル・ウォリアーとチューニングサポーターの効果発動！チューニング・サポーターの効果で一枚ドロ！そしてドッペル・ウォリアーの効果でドッペル・トークンを2体を攻撃表示で特殊召喚！」

確実に今日の過労死はドッペルだと思っ

「さらに俺はシューティングスターのモンスター効果を発動！その効果でデッキの上から五枚を確認してたチューナーの数だけ攻撃できる！一枚目！チューナーモンスター！ジャンクシンクロン！二枚目！チューナーモンスター！クイツクシンクロン！三枚目！チューナーモンスター！スポア！四枚目！チューナーモンスター！クイツクシンクロン！五枚目！魔法カード！手札断殺！よってシューティングスターはこのターン！四回攻撃を行うことができる！」

「ちょ！このタイミングで連続攻撃だと！？」

「そのままバトル！」

「ちっ！使いたくなかったけど、お前のメインフェイズ終了時に手札からエフェクト・ヴェーラーの効果を発動！」

『「よつやくの順番ですか」』

「たのんます！！！」

『働きたくないでござる！！（キリッ）』

「（イラッ！）さっさと墓地行けゴラァ！！！」

『「ちょ、おま」』

エフェクト・ヴェーラー

チューナー（効果モンスター）

星1/光属性/魔法使い族/攻

0/守

0

このカードを手札から墓地へ送り、

相手フィールド上に表側表示で存在する

効果モンスター1体を選択して発動する。  
選択した相手モンスターの効果をエンドフェイズ時まで無効にする。

この効果は相手のメインフェイズ時のみ発動する事ができる。

「エフェクト・ヴェーラーを手札から墓地に送りその効果でシューティングスターの効果を無効にする！」

「は〜い。いい子だから大人しくしててね〜」

『ぐおおお?』

声に力が入っていない様子の流星龍

「エフェクト・ヴェーラーだと!？」

本当はレモンに使いたかったのに緊急回避で使っちゃったじゃねえか畜生

「おい!お前!そのカードをどこで手に入れた!？」

おや?オリヌシ君が何かを言ってきたが。なんで持ってるかってそりゃあ・・・あ

『使わなかったら負けてて使ったらオリヌシ君に転生者とばれる。これが世に聞くどうあがいても絶望なんですわわかります』

おまいは墓地で寝てる。ていうかスクラップは知らんのにヴェーラーは知ってるのかよ

「答える！」

「……ほんとにどうしてこうなったし。厄日か？まあこうなったら答えは唯一つ！」

「お前が俺に勝つたらな！」

「これがデュエル脳でござる。この世界ならこれでも通じるでしょう。」

「ちつ。まあいい。だったらこのまま勝てばいいだけだ！行け！レッド・デーモンズ！アブソリュートパワーフォース！」

「あつっ！？」

その攻撃で破壊されるスクラップビースト。そしてその後に行っているのは

「レッド・デーモンズの効果発動！その効果で守備表示モンスターを攻撃したとき、相手フィールド上の守備表示モンスターを全て破壊する！デモン・メテオ！」

効果で破壊されていくサモプリとたけし。だから使いたくなくなつたのに！

「さらにシューティングスターは効果が無効にされただけで攻撃する権利は残っている！いけ！シューティングスター！スターダストミラーシュー！」

「終るかああああああああ！俺は速攻魔法サイクロンを発動

！その効果でアームズエイドは破壊させてもらおう！」

「シューティングスターの効果は無効にされているから無効にできない・・・」

このタイミングは本当に運がよかった！さすがサイクロン！頼りになる

サイクロン

速攻魔法

フィールド上に存在する魔法・罠カード1枚を選択して破壊する。

「ぐうぐうぐうぐう！？」

さすがに3300ポイントのダメージはきつい！

「これで止めだ！ドッペルトークン2体でダイレクトアタック！」

「まだまだああああああ！罠カード発動！リビングデッドの呼び声！その効果で墓地のスクラップビーストを特殊召喚！蘇れ！スクラップビースト！」

「ちい！運のいいやつめ！攻撃は中止だ！そして俺はターンエンド！」

「メインフェイズ2の終了時！速攻魔法発動！スクラップスコール！その効果でビーストを選択し、デッキからスクラップを一体墓地に落としてワンドロー！その後ビーストを破壊してビーストの効果でキマイラを回収！」



このカードが墓地に存在する場合、  
このカード以外の自分の墓地に存在する  
植物族モンスター1体をゲームから除外して発動する。  
このカードを墓地から特殊召喚し、  
この効果を発動するために除外したモンスターのレベル分だけ  
このカードのレベルを上げる。  
「スポーア」の効果はデュエル中に1度しか使用できない。

嘘だろ！？

「いつの間に！？」

「バルブの効果で落ちてたのさ！スポーアの効果で墓地の植物族の  
グロリアップバルブを除外し、このカードを墓地から特殊召喚！そ  
して特殊召喚されたスポーアのレベルは除外したモンスターのレベ  
ルアップする。バルブのレベルは1！よってスポーアのレベルは1  
上昇し2となる！」

綿毛のようなモンスターが墓地より復活してくる。かわいい顔し  
てあげつないんだよな

「俺はレベル1ドッペルトークン2体にレベル2となったスポーア  
をチューニング！シンクロ召喚！アームズエイド！」

2体目のアームズエイドが出てきたわけだが、お前本当にエクス  
トラデッキ15枚かよ！

「効果でチューニングスターに装備！さらに俺は手札から調律を  
発動！効果でジャンクシンクロンを手札に加え、そのまま召喚！ジ  
ヤンクシンクロンの効果発動！効果でスポーアを蘇生する！」



「この構えは!？」

「荒ぶる。荒ぶるぞ!俺の魂が!」

そういつて体が赤く発光しだすオリヌシ君。最早びっくり人間である。テレビに出れば儲かるんじゃないかなろうか

『現実逃避いくない』

「チート良くない」

いつも厳しい現実よりいつも優しい妄想に逃げるのは仕方ないと思わないかい？

「俺はレベル8レッド・デーモンズ・ドラゴンに、レベル1チューナーモンスタースポアとレベル3チューナーモンスタージャンクシンクロンをダブルチューニング!」

いつもは緑色の光る輪になるはずのチューナーが赤く燃える輪となりレッド・デーモンズ・ドラゴンを囲み、周りを回り徐々にその速度を上げてその姿を隠していく

「王者と悪魔、今ここに交わる。荒ぶる魂よ、天地創造の叫びをあげよ。シンクロ召喚!いでよ、スカーレッド・ノヴァ・ドラゴン!」

『グオオオオオオオオオオオオ!!!』

そのあまりの速さに炎の塊のようになった中からスカーレッドノ

ヴァが現れた

「スカーレットノヴァの攻撃力は墓地に存在するチューナーの数×500アップする！俺の墓地にチューナーは6体！よってその攻撃力は元々の攻撃力3500にプラス3000され6500となる！」

『ガアアアアアアアアアア！！』

スカーレット・ノヴァ・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星12/闇属性/ドラゴン族/攻3500/守3000

チューナー2体+「レッド・デーモンズ・ドラゴン」

このカードの攻撃力は自分の墓地に存在するチューナーの数×500ポイントアップする。

このカードは相手の魔法・罠・効果モンスターの効果では破壊されない。

また、相手モンスターの攻撃宣言時、このカードをゲームから除外し、

相手モンスター1体の攻撃を無効にする事ができる。

エンドフェイズ時、この効果で除外したこのカードを特殊召喚する。

「・・・」

『・・・さすがにこれは洒落になりませんね』

あまりの圧倒的差にヴェーラーさんすらこの有様。確言う俺も正直もう無理だと思ってるからどうともいえないけどな。俺のデッキにこいつらを除去するカードは強制脱出装置と次元幽閉の各一枚ずつ、計2枚入っている。次から連続で引けたとしてもその前にその

圧倒的火力で終わりだろう

「バトル！スカーレット・ノヴァ・ドラゴンでダイレクトアタック！」

「まだまだ！例えダメでも最後までやって負けてやらあ！！手札からバトルフェーダーの効果発動！その効果でこのカードを特殊召喚し、その後バトルフェイズを終了させる！」

バトルフェーダー

効果モンスター

星1 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻 0 / 守 0

相手モンスターの直接攻撃宣言時に発動する事ができる。

このカードを手札から特殊召喚し、バトルフェイズを終了する。

この効果で特殊召喚したこのカードは、

フィールド上から離れた場合ゲームから除外される。

リンゴーン、リンゴーン

突如現れた鐘を持つ悪魔が現れその鐘から音が鳴り響きバトルフェイズを終了させた

「ああああああああ！うつつとしい！！さっさとやられてしまえ！！それにバトルフェーダーだと！？どこで手に入れた！？」

さすがにまだ耐えられるのに止められるかよ

「勝つたら教えるって言ったろ？」

「ああもう本当にイライラする！！俺はターンエンドだ！」

なんとかこのターンもしのいだが、正直もうなんでも止められるようなカードは入っていない。完全な破壊耐性をもつスカノヴァに破壊効果なら自身以外に効果が及ぶ場合でも止めることのできる流星龍。両龍共にバウンスと除外には対応しておらず、墓地送りにも対応していないが、破壊に関してはトップクラスの硬さを誇っている。戦闘で破壊しようとも、両龍に存在する攻撃無効効果によって止められてしまう。突破するためには念入りな準備が必要だが、その時間もない。どう見ても詰みだな

「俺のターン！ドロー！」

まあこのドローを見た後に諦めたって良いじゃない。というわけでどれどれと・・・俺はまだワンチャンあるらしいな

「俺はカードを一枚セットしてターンエンド！！！」

「また伏せカードか！いいかげん諦める！俺のターン！ドロー！そしてバトル！シューティングスターでバトルフェーダーを攻撃！」

「通すとも思ったか！！畏カード発動！デモンズチェーン！」

デモンズ・チェーン

永続罫

フィールド上に表側表示で存在する

効果モンスター1体を選択して発動する。

選択したモンスターは攻撃できず、効果は無効化される。

選択したモンスターが破壊された時、このカードを破壊する。

「その効果でお前のシューティングスターは効果は無効にされ、さ



「どうした？ターンエンドしないのか？」

『マスター？』

ターンエンドしようとした俺の目の先の観客席にいた。新しく友達になったゆまちゃんが。ただそれだけなら俺はこのままターンエンドしていた。だけどその目を見た瞬間にどうしてかターンエンドする気がなくなってしまった。そう、あの目はあの時の

(あいつ・・・どんなにキラキラした目でこっちを見てきやがる)

そうあの時初めてデュエルしたさいに見せた期待感がこもった目。これから何が起るのを楽しみにしている目。そんな目で見られたら俺は

(なんとかしたくなっちゃうだろうがよ!!)

どうにかして勝ちたい！あの期待にこたえたい！そんな気持ちが溢れてくる。だけど・・・

(どうする！何がある！！俺に残された勝機!!)

どれだけ見渡そうと、考え直そうと状況は変わらない。俺のハンドはサイクロンとキマイラ。墓地には墓地発のカードはなく、フィールドには流星龍を押さえつけているデモチエと一ターン目から伏せてあるブラフのカードだけ

(どうする！どうすればいい!?)

気持ちだけが焦っていく

「おい！何もしないならターンエンドしろ！」

オリヌシ君からも文句が飛んできている。早くしないと強制的にターンが相手に移ってしまう。早く何かを・・・ッ！？

（そうだ！あの時もこれほどひどくはなかったけど、絶体絶命だった。その状況で俺はどうやって勝った！？）

脳裏をよぎるのはあの時のフィニッシャー。だけど

（あと一手！！あと一手足りない！！）

流星龍の効果は封じてあるが、スカーレットノヴァの効果が顕在である。どれだけ高い攻撃力を叩きだしても攻撃が当たらなければ意味は無い

（どうする！？攻略するためのカードは分かった！使う覚悟もどうでもいい！けどあとはどうやってその攻撃を届かせるかだ！もう一回状況を整理しろ！！必ずなにかあるはずだ！！）

「おい！早くしろ！！」

（ハンドにはサイクロンとキマイラ、墓地には何も無い。フィールドはデモチエとブラフ・・・！？）

あった・・・あった！！そうだ！このカードがあった！！全く使えないと思っていたが、相手を利用すればいける！！





星4 / 地属性 / 獣族 / 攻1700 / 守 500

このカードが召喚に成功した時、

自分の墓地に存在する「スクラップ」と名のついた

チューナー1体を選択して特殊召喚する事ができる。

このカードをシンクロ素材とする場合、

「スクラップ」と名のついたモンスターのシンクロ召喚にしか使用  
できず、

他のシンクロ素材モンスターは全て

「スクラップ」と名のついたモンスターでなければならない。

「その効果で墓地に存在するスクラップを特殊召喚！こい！！スク  
ラップビースト！！！！」

「そんなモンスターを2体並べてなんになる」

「こつするんだよおお！俺はレベル4のスクラップキマイラとスク  
ラップビースト2体をオーバーレイ！！」

フィールド上のスクラップキマイラとビーストが光の玉となって  
足元に現れた渦に吸い込まれていく

「なんだ！？なにが起こっている！？」

「なんなの？ね何が起こっている？ネ！？」

「2体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築！！エクシ  
ーズ召喚！！！！現れる！No.39希望皇ホープ！」

光の渦が爆発し、その中から新たなモンスターが現れる

「ホオオオオオオオオオオ！」

No.39 希望皇ホープ

エクシーズ・効果モンスター

ランク4 / 光属性 / 戦士族 / 攻2500 / 守2000

レベル4モンスター×2

自分または相手のモンスターの攻撃宣言時、

このカードのエクシーズ素材を1つ取り除いて発動する事ができる。

そのモンスターの攻撃を無効にする。

このカードがエクシーズ素材の無い状態で攻撃対象に選択された時、

このカードを破壊する。

「な、なんだそのモンスターは！？それに黒のカードだ！？」

オリヌシ君が何か言ってるが聞こえないなあああ！！今の俺は最っ高にハイってやつだああああああ！！

「まだまだあああああ！！更に俺は、混沌を希望に変える力！！カオスエクシーズチェンジ！現れるCNo.39 希望皇ホープレイ」

CNo.39 希望皇ホープレイ

エクシーズ・効果モンスター

ランク4 / 光属性 / 戦士族 / 攻2500 / 守2000

光属性レベル4モンスター×3

このカードは自分フィールド上の「No.39 希望皇ホープ」の上に

このカードを重ねてエクシーズ召喚する事もできる。



「甘かったな！！俺はスカーレットノヴァのモンスター効果を発動！相手が攻撃宣言を行ったとき、このカードを除外することでその攻撃を無効にする！！」

フィールドに存在したスカーレットノヴァが異次元に消え、ホープレイの攻撃が止まってしまおうが

「どうだ！！俺のモンスターが負けるものか！！」

「・・・」

「さあ！ターンを終了しろ！！」

そう。本当ならここで終了だろう。だけど！

「それはどうかな？」

「なに？」

「俺はこの瞬間を待っていたああああああああ！！ホープレイの攻撃が無効になった瞬間！！伏せてあった速攻魔法！ダブルアップチャンスを発動！！！！」

「なんだと！？」

ダブル・アップ・チャンス

速攻魔法

モンスターの攻撃が無効になった時、

そのモンスター1体を選択して発動する。

このバトルフェイズ中、

選択したモンスターはもう1度だけ攻撃する事ができる。  
その場合、選択したモンスターはダメージステップの間攻撃力が倍になる。

「その効果でもう一度ホーププレイは攻撃できる!!」

「何!?だが、それでは俺は倒せない!!」

「甘えんだよおお!!ダブルアップチャンスの効果には続きがあつてその二回目の攻撃時に攻撃力を二倍にする効果がある!!よつてホーププレイの攻撃力は4000の倍の8000!!」

「なんだと!?!」

「さらに!手札から速攻魔法サイクロンを発動!この効果でアームズエイドを破壊!!これで終わりだ!!」

「まだだ!誰が攻撃を無効にする効果をもつのがスカーレットノヴァだけだと言つた!シューティングスターにも攻撃を無効にする効果がある!」

「それがどうした!!その効果はデモンズチェーンで無効になつてゐる!よつてホーププレイの効果は無効にすることはできない!!」

「な!?!しまつた!?!?!?!」

これで終わりだああああああああああ!!

「いっけええええええええええええええええ!!CNO・39  
希望皇ホーププレイでシューティングスターを攻撃!!」



もうお前が切り札でいいや　おい（後書き）

今回は5D・sとゼアルのアニメを見返してるときに書きたくなくなったので書いた。反省はしているが後悔はしていない

というわけで今回はご都合主義多めでお送りしました  
流星龍の効果とダブルアップチャンスが相性がよすぎた。私は悪くない

言い訳はここまでで、本当はもっと違った展開だったのですが、どうしてもそうするとたけしが突破できなくなってしまうので急遽変更しました。なのでもしかしたらミスがあるかもしれませぬ。

次回も不定期ですが読んでくださると幸いです

感想は待ってます

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3149w/>

---

遊戯王って難しい・・・

2012年1月14日23時51分発行